



Kodak

i2900 スキャナー

TWAIN アプリケーション用
スキャンセットアップガイド

TWAIN データソースの使用

Scan Validation Toolの起動	2
[Scan Validation Tool] ダイアログボックス	2
TWAIN データソースの使用.....	4
開始方法	4
新しい設定のショートカットの作成.....	5
イメージ設定の変更	6
デバイス設定の変更	7
コダック スキャナーメインウィンドウ	8
イメージ設定ウィンドウ	12
プレビューウィンドウ	13
[一般] タブ.....	15
[サイズ] タブ	17
[調整] タブ：白黒.....	20
[調整] タブ：カラーまたはグレースケール.....	22
[拡張機能] タブ	24
詳細イメージセットアップ	27
[詳細] タブ.....	27
[原稿内容の設定] タブ	30
例1：原稿の色量を基にカラー/グレースケールと白黒スキャンを 切替え	32
例2：原稿の各面に対して複数イメージを作成	34
例3：ドキュメントの両面にそれぞれ異なる設定を使用	36
デバイス設定ウィンドウ	38
デバイス - [一般] タブ.....	39
デバイス - [プリンタ] タブ	42
デバイス - [重送検知] タブ	46
[診断] ウィンドウ	48
診断 - [一般] タブ	49
診断 - [デバッグ] タブ.....	50
診断 - [ログ] タブ	51

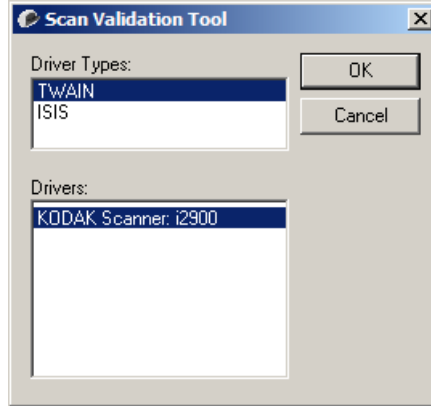
コダック i2900 スキャナーのイメージ処理機能を使用すると、高画質のスキャン画像が取得できます。

イメージ処理とはそれぞれのイメージに対して給紙の傾き調整や不要な粹消し、イメージのノイズ除去などスキャン画像の質を自動的に向上させる機能のことです。

本ガイドではTWAIN データソースの使用手順やスキャナーの機能について説明します。これらの機能は、使用しているスキャンアプリケーション（**コダック** キャプチャソフトウェアなど）のユーザインターフェイスでも選択できます。

Scan Validation Tool の起動

1. [スタート] > [プログラム] > [Kodak] > [Document Imaging] > [Scan Validation Tool] を選択します。



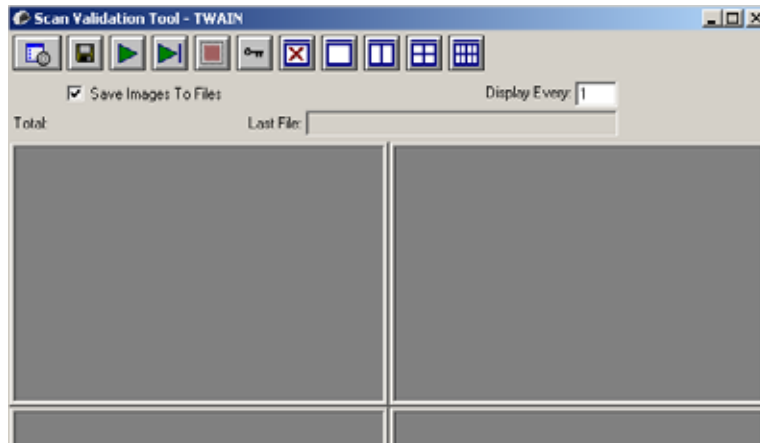
2. [ドライバの種類]として[TWAIN]を選択し、[ドライバ]として[KODAK Scanner i2900]を選択します。

[Scan Validation Tool] ダイアログボックスが表示されます。



[Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Toolはコダックが提供する診断アプリケーションです。SVTのユーザインターフェイスを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Toolを使用すると、TWAINデータソースを使用してスキャナーの機能を検証できます。



ツールバーボタン



セットアップ - 選択されたドライバ用のユーザインターフェイスを表示します。



保存先 - スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、[イメージをファイルに保存]を選択した場合にのみ利用できます。



スキャン開始 - 入力トレイにある原稿をスキャンします。



1ページスキャン - 1ページだけスキャンします。



停止 - スキャンを終了します。



ライセンスキー - [ライセンスキー] ウィンドウを表示します。



表示モード (画像なし) - [イメージビューア] ウィンドウを閉じます (イメージは表示されません)。



表示モード (1画像) - 1回に1枚のイメージを表示します。



表示モード (2画像) - 1回に2枚のイメージを表示します。



表示モード (4画像) - 1回に4枚のイメージを表示します。



表示モード (8画像) - 1回に8枚のイメージを表示します。

イメージをファイルに保存 - 選択すると、指定したディレクトリにイメージが保存されます。

指定数ごとに表示 - スキャン中に表示するイメージのサンプリングレートを入力します。たとえば、すべての画像を見るには1を入力します。10個ごとに1つの画像を表示するには、10を入力します。

合計 - 現在の Scan Validation Tool セッションでスキャンされた画像の総数を表示します。

- TWAIN データソース (または ISIS ドライバ) にアクセスするには、[Scan Validation Tool] ダイアログボックスの**セットアップ**アイコンをダブルクリックして**コダックス**スキャナーメインウィンドウにアクセスします。

最後のファイル - 最後に保存した画像のフルパスとファイル名を表示します。

TWAIN データソース の使用

コダック ScanMate i2900 スキャナーは、ご使用のスキャンアプリケーションと連携動作する TWAIN データソースを使用することで様々なイメージを提供できます。TWAIN データソースは、スキャンアプリケーションにスキャナーをリンクさせるスキャンシステムの一部です。

TWAIN データソースを使用する場合、コダックスキャナーメインウィンドウには [設定のショートカット] が一覧表示されます。それぞれの [設定のショートカット] は特定のイメージとデバイス設定のグループです。[設定のショートカット] には、さまざまな原稿に対応する、一連の出力設定が定義されています。いずれの [設定のショートカット] も希望に満たない場合は、カスタマイズした設定のショートカットを作成できます。たとえば請求書をスキャンする場合は、「請求書」という名前の設定ショートカットを作成し、[設定のショートカット] を選択するだけでスキャンできます。詳細は、この章の後半にある「新しい設定のショートカットの作成」および「イメージ設定の変更」を参照してください。

開始方法

最終的な目的は、できるだけ簡単にスキャンすることです。コダックスキャナーメインウィンドウから [設定のショートカット] を選択し、[OK/スキャン] を選択するだけで実行できます。

このスキャナーにはすでにいくつかの設定のショートカットが定義されています。ほとんどの場合、これらのショートカットで必要なすべての作業を実行できます。別の設定が必要な場合は、独自のショートカットを作成する必要があります。作成したショートカットは [設定のショートカット] のリストに追加され、以降のスキャンに使用できます。

設定するオプションの大半は、以下の2つのウィンドウにあります。

- **イメージ設定** : コダックスキャナーメインウィンドウの [設定] ボタンをクリックすると、[イメージ設定] ウィンドウが表示されます。このウィンドウの [一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能] タブを使って、イメージ処理パラメータを設定することができます。また、[デバイス] ボタンをクリックしてデバイス設定を行ったり、[詳細イメージセットアップ] アイコンをクリックして詳細設定ができます。
- **デバイス設定** : [デバイス] ボタンは、[イメージ設定] ウィンドウにあります。[デバイス] を選択すると、[一般] タブや [重送検知] タブが表示されます（拡張プリンタがインストールされている場合は [プリンタ] タブも）。デバイス設定ウィンドウでは、[診断] にアクセスすることもできます。

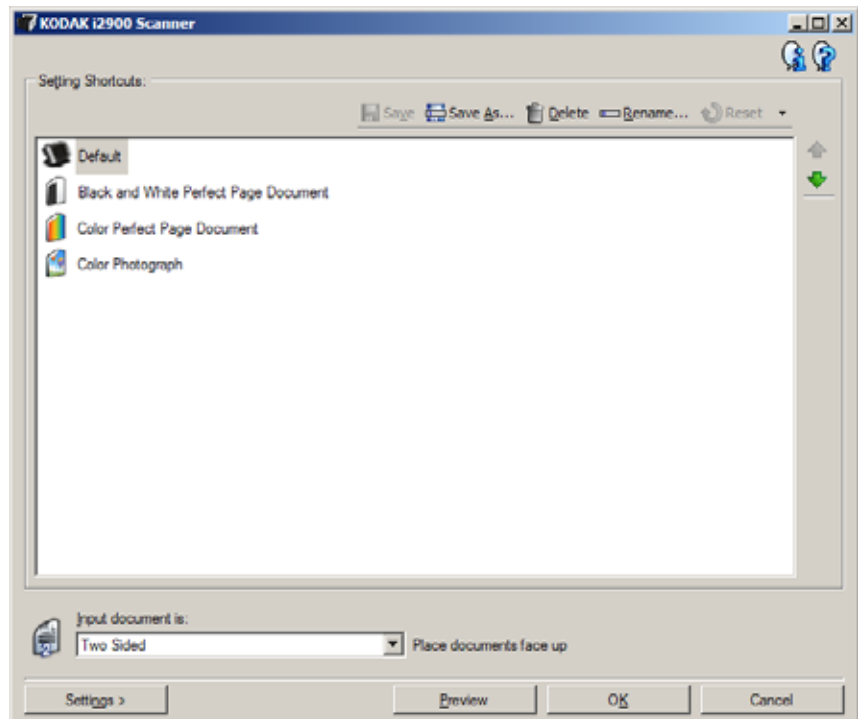
以降の手順は、ショートカットの設定方法について説明しています。コダックスキャナーメインウィンドウの各機能とオプションの詳細な説明は、「コダックスキャナーメインウィンドウ」を参照してください。

注： 設定のショートカットの設定が、スキャンアプリケーションの設定に優先することがあります。このような場合、そのショートカットがコダックスキャナーメインウィンドウに斜体で表示され、その隣に<変更済み>と表示されます。設定のショートカットを使用せず、まず個人設定をスキャナーにダウンロードしてから、TWAIN データソースにアクセスするアプリケーションで、このような状況が発生します。

[OK] をクリックしてスキャンを開始すると、設定の変更を保存するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。設定のショートカットを使わないアプリケーションを利用する場合は、この質問に対して [いいえ] を選択してから、スキャンを行ってください。

新しい設定のショートカットの作成

コダックスキャナーメインウィンドウから、以下の作業を行います。



1. [設定のショートカット] リストから、あらかじめ定義されている設定のショートカットを選択します。目的のイメージ出力に最適な [設定のショートカット] を選択します。
2. [入力ドキュメントのタイプ] ドロップダウンリストから、原稿の表面か、裏面、または両面のイメージを作成するかを選択します。
3. スキャナーメインウィンドウで [設定] を選択します。[イメージ設定] ウィンドウの [一般] タブが表示されます。

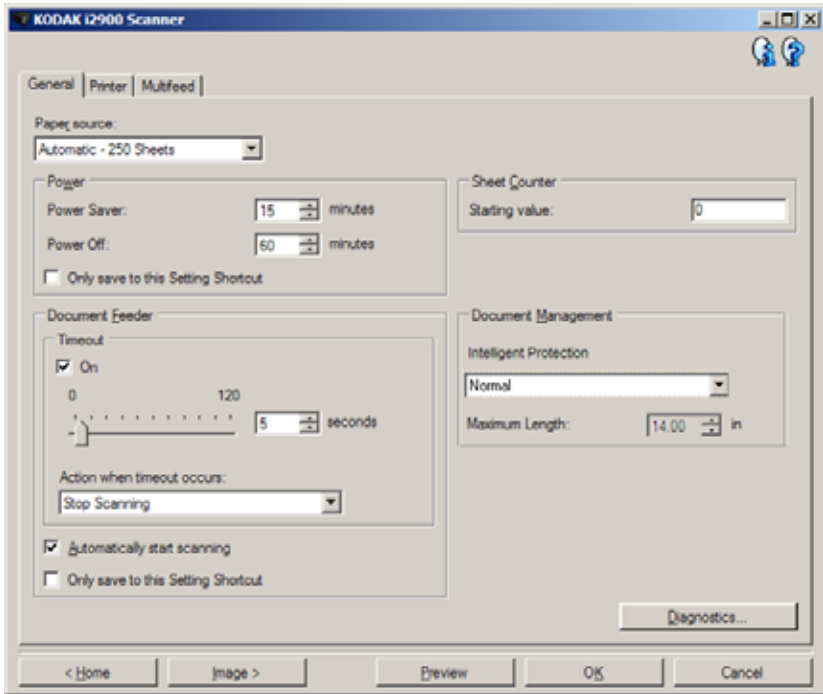
4. [一般] タブで適切なオプションを選択します。
注： 必要な場合は、他のタブで各設定を確認し、変更します。
5. スキャナーの入力エレベータに原稿を1枚セットします。
6. どのようにイメージがスキャンされるかを確認するには、[プレビュー] をクリックします。
注： 表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、イメージ設定ウィンドウの他のタブで設定内容を更に調整します。
7. [イメージ設定] ウィンドウの [デバイス] を選択して目的のデバイス設定を定義し、[デバイス設定] ウィンドウを表示します。
8. 各タブで、スキャナーに実行させる適切なオプションを選択します。
9. [ホーム] をクリックしてスキャナーメインウィンドウに戻ります。
10. [名前を付けて保存] を選択して、[名前を付けて保存] ウィンドウを表示します。
11. 設定内容がわかりやすい新しいショートカット名を入力して、[保存] をクリックします。

イメージ設定の変更

1. スキャナーメインウィンドウの [設定のショートカット] リストから目的とするイメージ出力に最も適切な設定のショートカットを選択します。
2. スキャナーメインウィンドウから、[入カドキュメントのタイプ] を選択します。
3. [設定] を選択すると、[イメージ設定] ウィンドウが表示されます。
4. 設定内容を変更する前に、[イメージ設定] ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。
5. スキャン時に実行する各オプションを適切に選択します。
6. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットの設定内容を保存します。

デバイス設定の変更

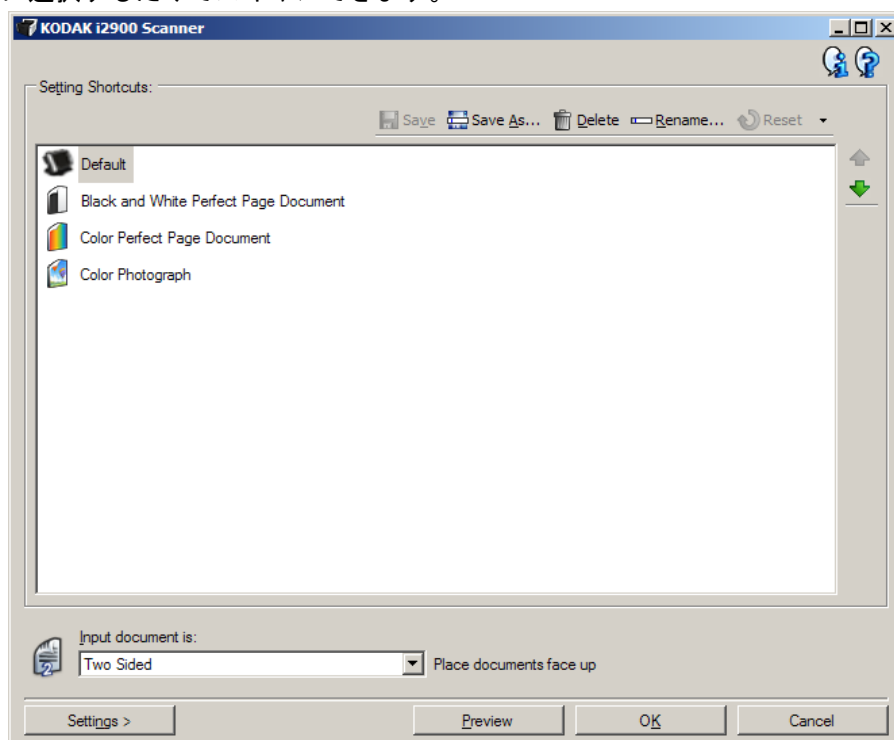
1. スキャナーメインウィンドウの [設定のショートカット] リストから目的とする出力に最も適切な設定のショートカットを選択します。
2. [設定] を選択して、[イメージ設定] ウィンドウを表示します。
3. [デバイス] を選択します。デバイス設定ウィンドウが表示されます。



4. 設定内容を変更する前に、デバイス設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。各機能の詳細は、「デバイス設定ウィンドウ」を参照してください。
5. 使用する各オプションでは、スキャンするときに実行する項目を適切に選択します。
6. 選択が終了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] をクリックして選択項目を [設定のショートカット] へ保存します。

コダックスキャナー メインウィンドウ

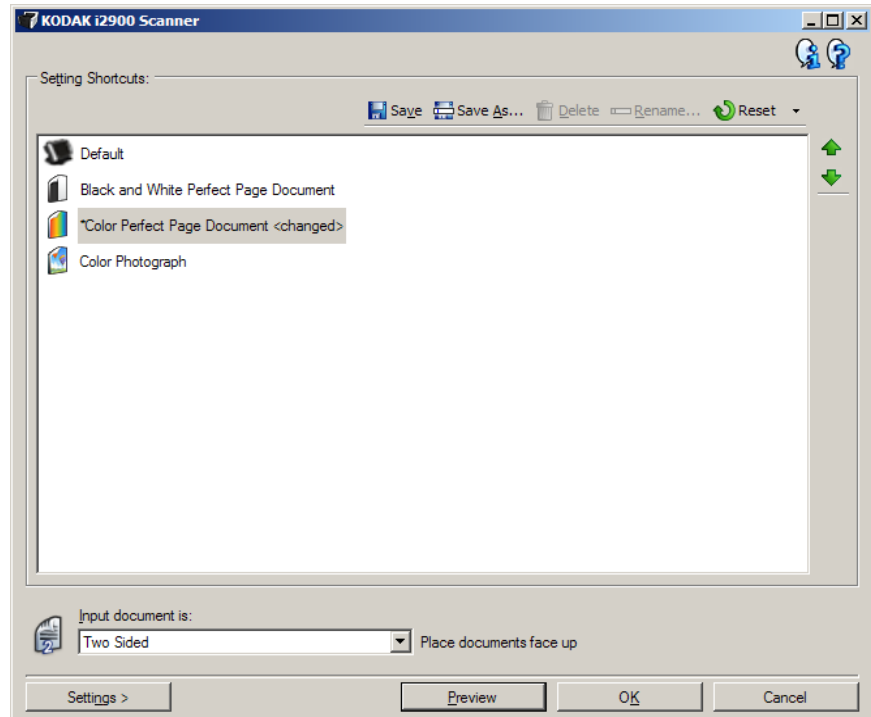
コダックスキャナーメインウィンドウは、スキャナーのユーザインターフェイスのホームウィンドウです。[設定のショートカット]、[OK/スキャン]の順に選択するだけでスキャンできます。



設定のショートカット - 現在定義されている設定のショートカットが一覧表示されます。次のショートカットが用意されています。

- デフォルト - スキャナーのデフォルト設定
- 白黒パーフェクトページ
- カラーパーフェクトページ
- カラー写真

注：「設定のショートカット」を変更したけれども、変更内容を保存していない場合は、その設定のショートカット名が斜体で表示され、その隣に「<変更済み>」というテキストが付きます（例：*デフォルト<変更済み>）。













入カドキュメントのタイプ - ドキュメントのどちらの面のイメージを出力するかを選択できます。

- 両面：原稿の両面をスキャンします。
- 片面 - 表：原稿の表面をスキャンします。
- 片面 - 裏：原稿の裏面をスキャンします。

注：スキャンする原稿の表面を上にして入力エレベータにセットしてください。

アイコン

	保存 - 選択した設定のショートカットに対して行った変更を保存します。
	名前を付けて保存 - [名前を付けて保存] ウィンドウが表示され、現在の設定を新しい設定のショートカットとして保存します。
	削除 - 選択した設定のショートカットを削除します。この場合、確認を求めるメッセージが表示されます。これはユーザが作成したショートカットに対してのみ使用できます。
	名前の変更 - 設定のショートカットの名前を変更します。これはユーザが作成したショートカットに対してのみ使用できます。
	リセット - 選択した設定のショートカットへの変更で保存していない変更 (例: 名前が斜体で<変更済み>が付いている) を元に戻すことができます。
	復元 - [復元] ウィンドウを表示して、予め用意されたショートカットに対して行った変更を元に戻すことができます。これは、予め用意されたショートカットが変更または削除された場合にのみ使用できます。
	インポート - 別の設定のショートカットのセットをインポートして、現在の全てのショートカットを置換します。このオプションを選択すると、OSの[ファイルを開く] ウィンドウが表示され、インポートするショートカットセットのファイルを選択できます。
	エクスポート - 現在のすべての設定のショートカットをショートカットセットにエクスポートします。このオプションを選択すると、OSの[名前を付けて保存] ウィンドウが表示され、ショートカットセットのファイル名を指定できます。
	上に移動 - 選択した設定のショートカットを、リスト中の1つ上の場所に移動します。再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。
	下に移動 - 選択した設定のショートカットを、リスト中の1つ下の場所に移動します。

注：

- [削除]、[名前の変更]、[復元]、[インポート]、[エクスポート] は、選択した設定のショートカットが変更中 (例: 名前が斜体で<変更済み>が付いている) の場合には使用できません。
- 設定のショートカットを移動すると、以降再び移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。
- 別のPCに設定のショートカットを転送する場合: 転送したいショートカットがあるPCから、[エクスポート] を選択し、別のPCで [インポート] を選択します。
- 現在のショートカットセットに設定のショートカットを追加する場合：
 1. [インポート] を選択してショートカットセットをロードします。
 2. 新しく [設定のショートカット] を作成します。
 3. ショートカットセットを置き換えるには [エクスポート] を選択して同じ名前で保存する必要があります。

設定 - [イメージ設定] ウィンドウで、選択した設定のショートカットを変更することができます。このウィンドウから、[デバイス設定] および [診断] ウィンドウにもアクセスできます。

プレビュー - スキャンを開始して、[イメージ設定] ウィンドウのプレビューウィンドウにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

OK/スキャン - このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注： このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル - 変更内容を保存せずに、**コダック** スキャナーメインウィンドウを閉じます。

情報アイコン



バージョン情報 : スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。

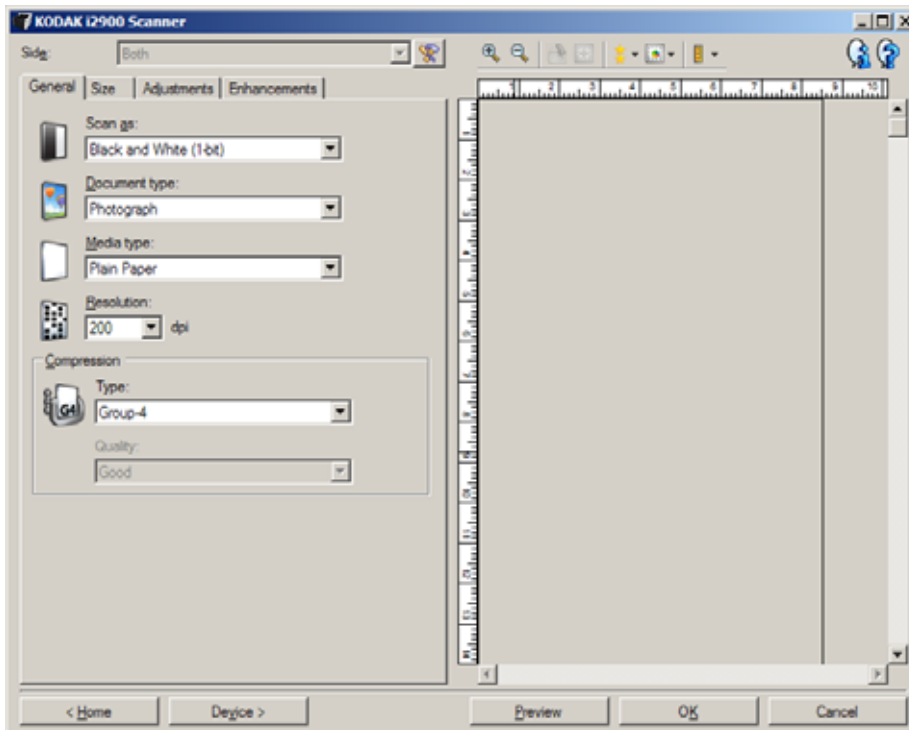


ヘルプ : 現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

イメージ設定ウィンドウ

このウィンドウから、利用可能なタブを使用してイメージ処理オプションを定義できます。イメージ設定に使用される値は、選択された設定のショートカットに保存されます。[イメージ設定] ウィンドウには、[一般]、[サイズ]、[調整（カラー/グレースケールと白黒）]、[拡張機能] の各タブがあります。

読取り面 - 設定する読み取り面とイメージを選択できます（例：表面、裏面、両面：カラー（24ビット）など）。すべてのイメージ設定は、選択されたイメージに適用されます。









注：[読取り面] オプションは、詳細設定が[詳細] タブで選択された場合のみ利用できます。



イメージの詳細設定：[詳細] タブが表示されます。

ツールバーボタン

	ズームイン ：プレビュー領域に現在表示されているイメージを拡大します。
	ズームアウト ：プレビューウィンドウに現在表示されているイメージを縮小します。
	アウトラインを回転 ：アウトラインを90度回転します。 注：このオプションは、回転されたアウトラインがスキャナーの最大幅までに適合する場合のみ使用できます。
	アウトラインを中央に配置 ：アウトラインがスキャナーの最大幅の中央に配置されるように、アウトラインのX原点を調整します。
	プレビューの品質 ：スキャンイメージの品質を選択します。 • 通常 ：イメージを低解像度で表示します。 • 高 ：実際のイメージにもっとも近い品質で表示します。このオプションを選択した場合、[プレビュー] ウィンドウに表示されるイメージは、最終的に出力されるイメージに近いものになります。 注：ドキュメントの内容に応じて、イメージを実際の表示の様に、拡大表示する必要がある場合があります。
	単位 ：スキャナーの測定値の単位を選択します。プレビューウィンドウとサイズ関連オプションがあります。[単位] オプションには、[インチ]、[センチメートル]、[ピクセル] があります。

プレビューウィンドウ

プレビュー領域ウィンドウに表示されるイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。プレビュースキャンの実行後に、このウィンドウにイメージが表示されます。

アウトライン - [サイズ] タブで **[原稿]**：[マニュアル指定] または **[イメージ]**：[ドキュメントの一部] のどちらを選択しても、プレビュー領域には現在の **[アウトライン]** 選択項目が表示されます。アウトラインがプレビューイメージと位置が合っていない場合は、マウスを使用してアウトラインのサイズと位置を調整できます。マウスのカーソルをアウトラインの回りで動かすとカーソルが変化し、マウスの左ボタンを押し続けるとアウトラインを変更できます。

- **移動**：カーソルをアウトライン内に置くと、アウトラインの位置を調整できます。
- **角**：グラフィックの四隅の1つにカーソルを置くと、2つの辺を同時に調整できます。



- **辺**：1つの辺を調整するには、その辺のいずれかのグラフィックの上にマウスカーソルを合わせます。



- **回転**：アウトラインの角度を調整するには、回転グラフィックの上にマウスカーソルを合わせます。



ホーム - コダックスキャナーメインウィンドウに戻ります。

デバイス - [デバイス設定] ウィンドウを表示します。

プレビュー - スキャンを開始して、プレビューウィンドウにイメージを表示します。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

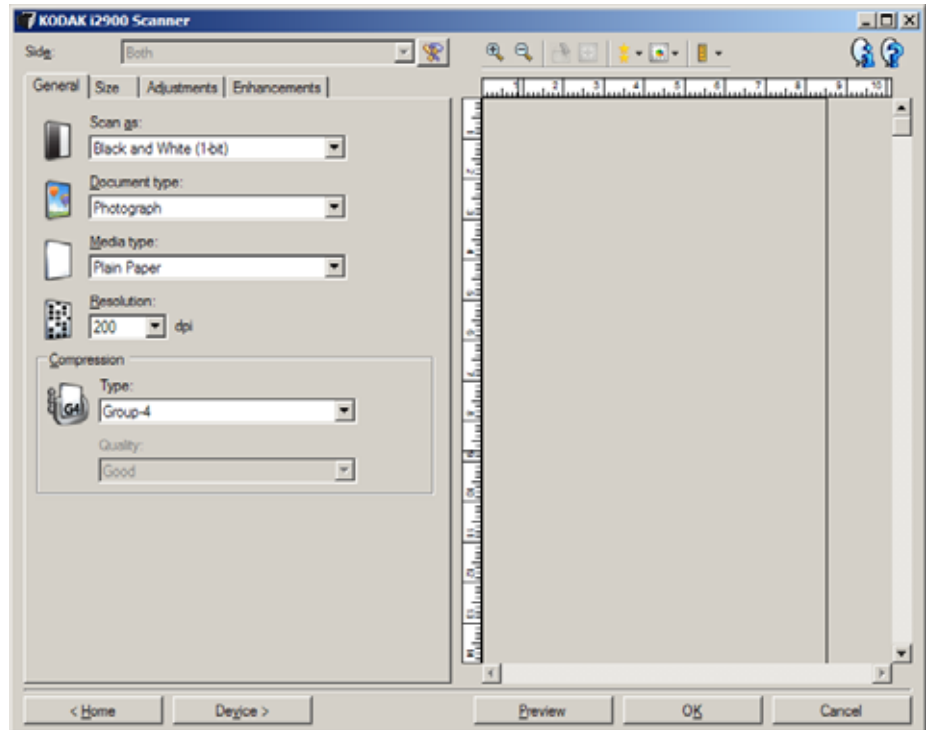
OK/スキャン - このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注： このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル - 変更内容を保存せずに、コダックスキャナーメインウィンドウを閉じます。

[一般] タブ

[一般] タブには一般的に使用されるイメージオプションが含まれています。ほとんどの場合、他のタブのオプションを変更する必要はありません。



スキャン方法 - イメージのフォーマットを選択できます。

- **カラー (24 ビット)** : カラーイメージを生成します。
- **グレースケール (8 ビット)** : グレースケールイメージを生成します。
- **白黒 (1 ビット)** : 白黒イメージを生成します。

注 : [スキャン方法] オプションは、[読取り面あたりのイメージ数] : [1] が [詳細] タブで選択されている場合にのみ使用できます。

ドキュメントタイプ - 原稿の内容を選択します。

- **文字と図形** : 文書、グラフィック (棒グラフ、円グラフなど)、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **文字** : 文字原稿の場合に選択します。
- **ピクチャ** : 写真が主体の場合に選択します。

原稿のタイプ - スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、[普通紙]、[薄紙]、[光沢紙]、[カードストック]、[雑誌]です。

解像度 - 1インチあたりのドット (dpi) 数を指定できます。この値は、スキャンしたイメージの画質に大きく影響します。また、スキャン時間やイメージサイズにも影響します。オプションは、[100]、[150]、[200]、[240]、[250]、[300]、[400]、[600]、[1200] dpiです。

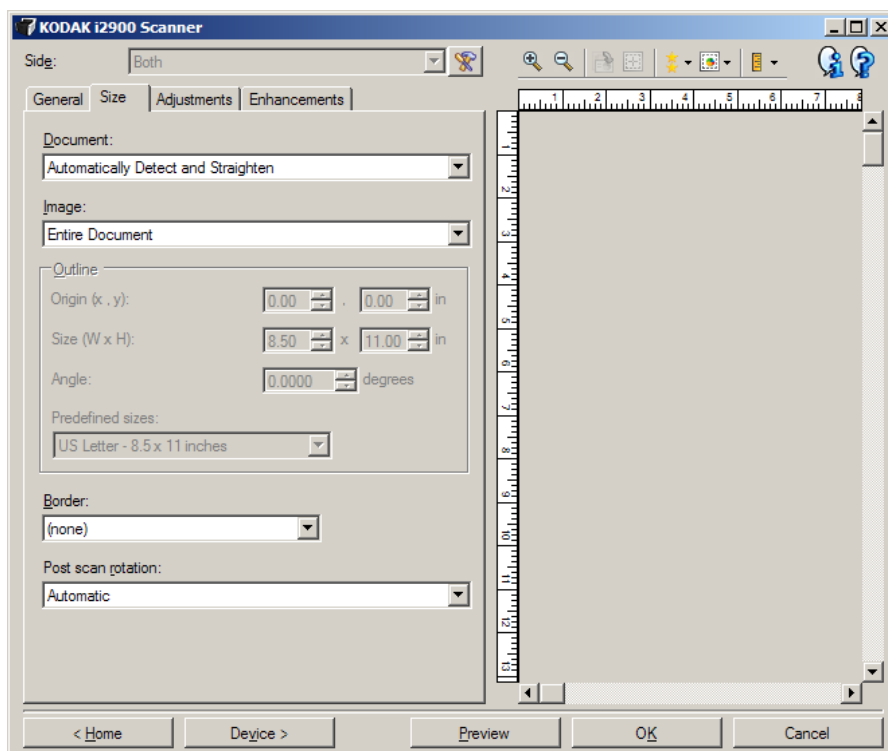
圧縮 - イメージのサイズを縮小できます。

- **種類** : ドキュメントのカラー版が生成されます。

注 : [グループ-4] および [(なし)] は、[スキャン方法] : [白黒 (1ビット)] の場合のみ使用できます。

- (なし) : 圧縮しません。サイズの大きなイメージが生成されます。
 - **グループ-4** : 白黒イメージを圧縮する CCITT 標準を使用します。通常は TIFF ファイルで利用します。
 - **JPEG** : JPEG 技術を使って、カラー/グレースケールイメージを圧縮します。
- **品質** - JPEG 圧縮を選択した場合に、次のいずれかの品質オプションを選択します。
 - **ドラフト** : 圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
 - **標準** : 標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
 - **高** : 一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
 - **最高** : 小さい圧縮率で非常に良い品質のイメージが生成されます。
 - **高品質** : 最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

[サイズ] タブ



原稿 - スキャナーから搬送中の原稿を検知する方法を選択します。

- **自動検知/傾き補正** : 各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知し、斜めに搬送された原稿の傾きを補正します。
- **自動検知** : 各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知します。原稿が斜めに搬送されても、補正されません。
- **マニュアル指定** : [アウトライン] オプションで指定する領域に基づきイメージが返されます。同一サイズ of 原稿を含むスキャンジョブに対してのみこのオプションを使用してください。

イメージ - ドキュメントのどの部分をイメージの作成に使用するかを選択できます。

• **ドキュメント全体 :**

- [ドキュメント]: [自動検知/傾き補正]、[ドキュメント]: [自動サイズ検知]、または [ドキュメント]: [マニュアル選択] を選択すると、ドキュメント全体がスキャン対象となります。

• **ドキュメントの一部 :**

- [ドキュメント]: [自動検知/傾き補正] を選択すると、[アウトライン] オプションで指定した原稿の一部がスキャン対象となります。

アウトライン - イメージの位置とサイズを選択できます。プレビューウィンドウにアウトラインが表示されます。

• **基点 (x,y) :**

- [ドキュメント]: [自動検知/傾き補正] を選択すると、(x) は原稿左端からの距離、(y) は原稿上端からの距離になります。
- [ドキュメント]: [マニュアル指定] を選択すると、(x) はスキャナーの搬送路の左端からの距離、(y) はスキャナーで検知された原稿の先端からの距離になります。

• **サイズ (幅、高さ) :**

- [ドキュメント]: [自動検知 / 傾き補正] または [ドキュメント]: [マニュアル指定] を選択すると、これがイメージの幅と高さになります。

注: アウトラインがスキャンされた原稿の長さを超える場合、イメージは指定された長さよりも短くなる場合があります。

• **角度 :** アウトラインの角度を選択できます。

• **設定サイズ :** 一般的に使用される用紙サイズのリストが表示されます。このリストから項目を選択すると、自動的にアウトラインのサイズがその用紙のサイズに設定されます。アウトラインサイズがいずれのサイズとも一致しない場合、[カスタム] が表示されます。

注: マウスを使用してプレビューウィンドウに表示されるアウトラインを調整することもできます。

外枠 - イメージの端の処理を選択できます。このオプションはプレビューイメージには適用されません。

• **(なし)**

• **追加 :** イメージの4辺に約0.25cmの黒枠が追加されます。

注: このオプションは、[ドキュメント]: [自動検知]、または [ドキュメント]: [マニュアル指定] が選択されている場合にのみ利用できます。

- **削除**：外枠を削除して、原稿内側のイメージを生成します。原稿が完全な四角形でない場合や歪んで搬送されたなど、原稿の端のばらつきによって外枠が発生します。

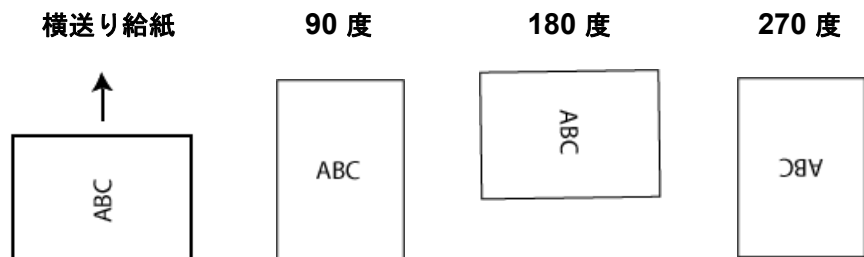
注：

- このオプションで外枠の大部分が削除できなかった場合、若干の文書情報が失われる可能性があります。
- このオプションは【ドキュメント】：【自動検知 / 傾き補正】 および【イメージ】：【ドキュメント全体】 がどちらも選択されている場合のみ使用できます。

スキャン後に回転 - 電子イメージのスキャン後にイメージに適用される回転率を選択できます。このオプションはプレビューイメージには適用されません。

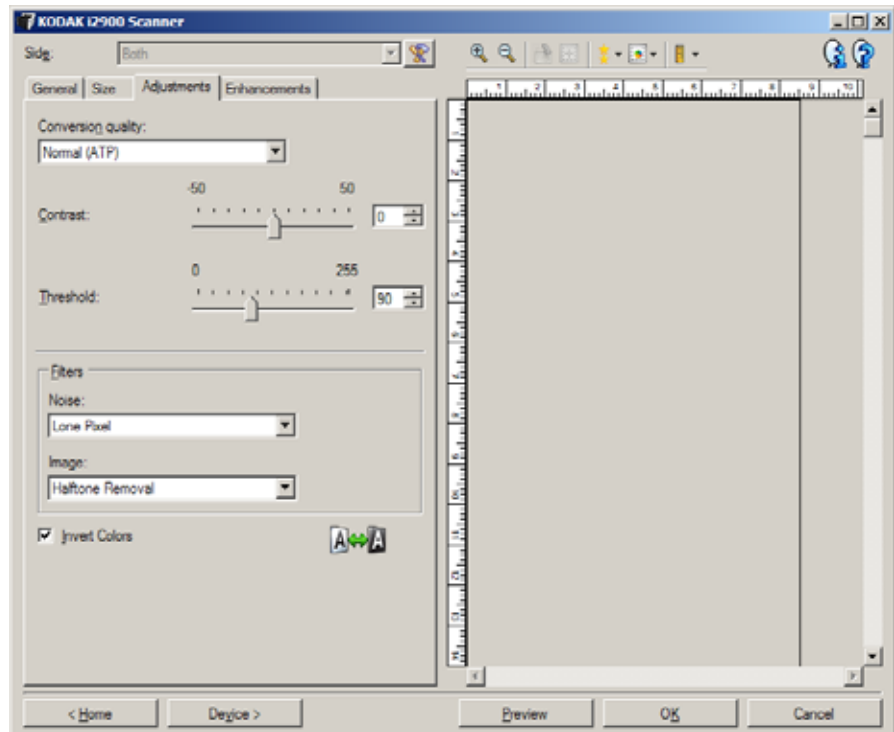
- (なし)
- **自動** - 各原稿を分析して、原稿が送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。
- **自動 - デフォルト値 90度**：スキャナーが原稿毎に分析して、原稿の正像を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿の方向を特定できない場合、イメージを 90度回転します。
- **自動 - デフォルト値 180度**：スキャナーが原稿毎に分析して、原稿の正像を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿の方向を特定できない場合、イメージを 180度回転します。
- **自動 - デフォルト値 270度**：スキャナーが原稿毎に分析して、原稿の正像を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿の方向を特定できない場合、イメージを 270度回転します。
- **90、180、270度** - 回転角度です。

以下の例は、これらの設定が横方向にスキャンされた原稿にどのように影響するかを表します。



【調整】 タブ：白黒

【調整】 タブで利用できるオプションは、【一般】 タブの【スキャン方法】の選択項目により異なります。以下のオプションは、【スキャン方法】で【白黒】を選択した場合に基づきます。



変換品質 - これらの設定は、白黒イメージを生成するために使用する、グレースケール原稿の解析方法に影響します。

- **最高 (iThresholding)** : 原稿ごとに解析して、最高品質のイメージを生成します。単一の設定で画質が異なる書類（文字のかすれ、暗い背景、カラーの背景など）をスキャンすることができます。
- **標準 (ATP)** : 目的の画質を生成するための最適な設定を選択できます。このオプションは単一の設定で原稿をスキャンする際に最適です。また、【最高】選択時に目標とする画質の【コントラスト】設定が見つからない場合など、異なる設定の書類をスキャンする場合にもこの設定を使用できます。
- **ドラフト (固定)** : ピクセルが白か黒かを判断するために使用するグレースケールのしきい値を選択できます。このオプションは、コントラストの高い書類に最適です。

コントラスト - イメージをより鮮明にまたはソフトにできます。この設定値を小さくすると、イメージがやわらかくなり、イメージ中のノイズが除去されます。この設定値を大きくすると、イメージがより鮮明になり、薄いイメージがわかりやすくなります。これらのオプションの範囲は **-50 ~ 50** です。デフォルト値は **0** です。

注 : これは、【変換の品質】 : 【最高】 および 【変換時の品質】 : 【通常】 の場合のみ使用できます。

スレッシュホールド - ピクセルを黒または白と認識するレベルを設定します (1ビット/ピクセル)。この設定値を小さくすると、イメージがより薄くなり、背景を抑えることができます。この設定値を大きくすると、イメージが濃くなります。また、薄いイメージを取り込みやすくなります。これらのオプションの範囲は0～255です。デフォルト値は90です。

注：これは、[変換時の品質] : [標準] および [変換時の品質] : [ドラフト] の場合のみ使用できます。

フィルタ

• ノイズ

- (なし)
- **孤立点除去** : 白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティールール** : 各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺全域ピクセルの多数が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

• 画像

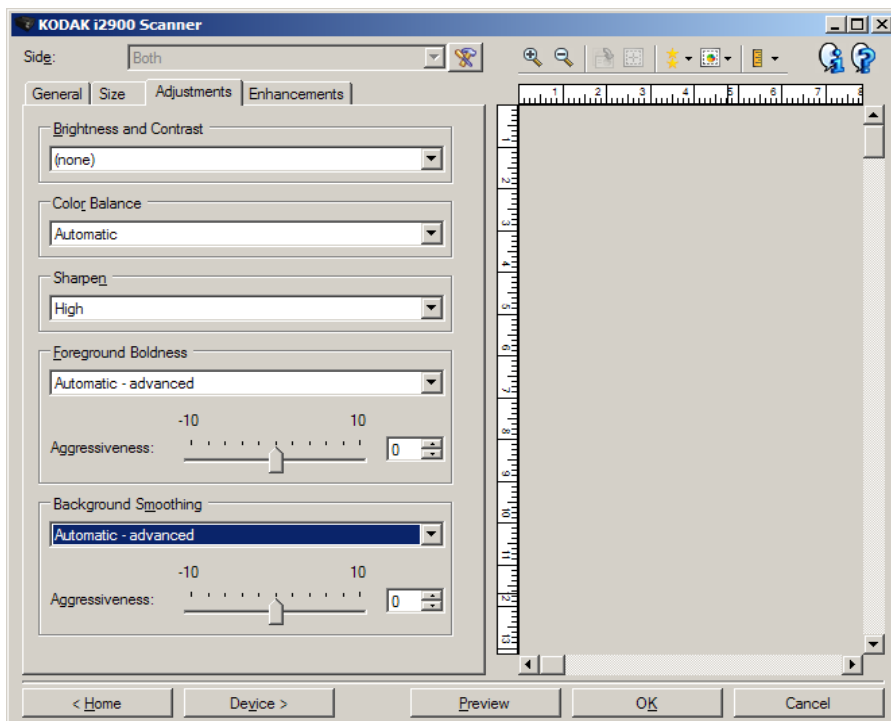
- (なし)
- **ハーフトーン除去** : ハーフトーンスクリーンを使って作成されたドットマトリックステキストおよびイメージ (新聞の写真など) の見栄えを良くします。

反転 - 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

[調整] タブ: カラーまたはグレースケール

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの [スキャン方法] の選択項目により異なります。以下のオプションは、[スキャン方法] で [カラー] または [グレースケール] を選択した場合に基づきます。

注: ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。設定が画面に収まりきれない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



明度とコントラスト

- (なし)
- 手動: すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
 - 明度 - カラー/グレースケールイメージの白レベルを調整します。値の範囲は **-50 ~ 50** です。
 - コントラスト - イメージをシャープに、またはソフトにします。値の範囲は **-50 ~ 50** です。

カラーバランス

- (なし)
 - **自動**：各原稿の白い背景を純白に調整します。このオプションを使用すると、用紙ごとの厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。このオプションは写真に対して使用しないことを推奨します。
 - **自動 - 詳細**：[自動] オプションの詳細を設定したい上級者向けです。
 - **強度** - 差異の度合いを調整できます。値を大きくすることで、古くなり黄ばんだドキュメントに対応することができます。値の範囲は -2 ~ 2 です。
 - **手動** - すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
 - **赤**：カラーイメージ中の赤のレベルを調整します。値の範囲は **-50 ~ 50** です。
 - **緑**：カラーイメージの緑のレベルを調整します。値の範囲は **-50 ~ 50** です。
 - **青**：カラーイメージの青のレベルを調整します。値の範囲は **-50 ~ 50** です。
- 注： カラーバランスはグレースケールイメージでは無効です。

シャープネス - イメージ内の境界線のコントラストを増やします。

- (なし)
- **通常**
- **高**
- **強調**

前景強調 - ドキュメントやフォームで前景（テキスト、ラインなど）をより目立つようにする場合に、このオプションを使用します。

- (なし)
- **自動**：すべての前景を目立つようにします。
- **自動 - 詳細**：[自動] オプションの詳細を設定したい上級者向けです。
 - **強度** - 強弱を調整して前景色を調整します。値の範囲は **-10 ~ 10** です。

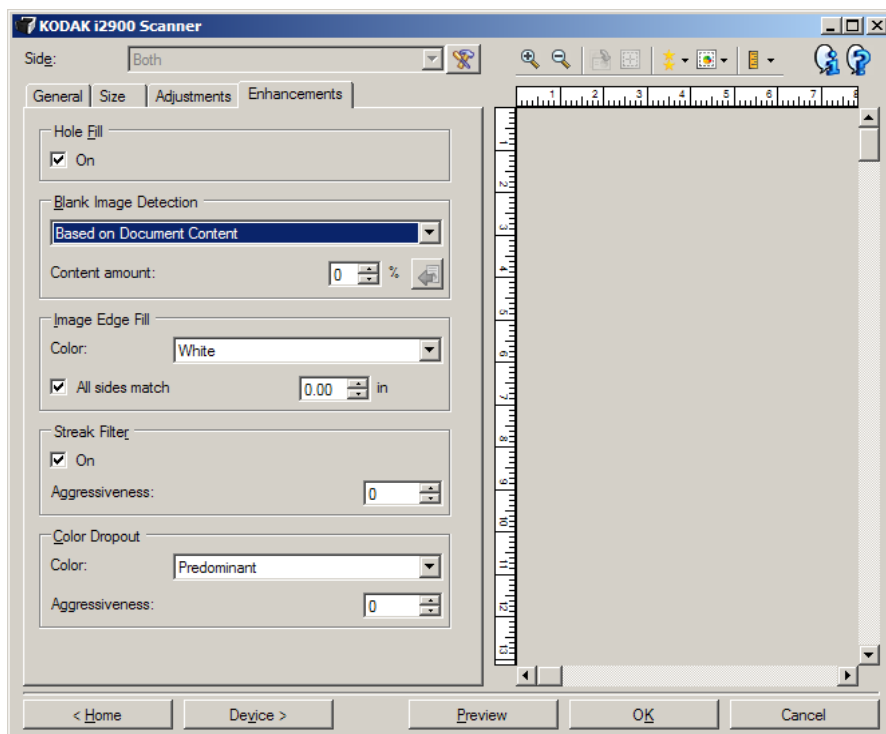
背景のスモーキング - 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上しながら、ファイルサイズを軽減できます。

- (なし)
- **自動**：背景色を3色までスモーキングします。
- **自動 - 詳細**：[自動] オプションの詳細を設定したい上級者向けです。
 - **強度** - 背景の強弱を決定できます。値の範囲は **-10 ~ 10** です。

[拡張機能] タブ

[拡張機能] タブのオプションは、[一般] タブの [スキャン方法] の選択項目により異なります。

注：ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。すべての設定が画面に収まらない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。




パンチ穴除去 - 原稿の端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、丸、長方形、不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーから原稿を取り外した際に発生した多少の裂け目など）です。

- **オン**：パンチ穴除去機能が有効になります。

注：写真をスキャンする場合は [**パンチ穴除去**] を有効にしないでください。

白紙イメージ検出 - スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。

- **(なし)**：すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **文字量基準**：イメージ内のドキュメント内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。
 - **内容量**：スキャナーが白紙であると判断する内容の最大量を設定できます。内容量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は0～100です。

- : **[文字量基準]** はプレビューイメージの内容量が入力されます。一般的な白紙原稿（レターヘッド付きの白紙原稿など）があれば、内容量を設定する際に参考になります（必要に応じてプレビュースキャン、このボタンのクリック、**[文字量基準]** の調整などを実行します）
注： このオプションはプレビューイメージがある場合のみ使用できません。

- **ファイル容量基準**：スキャンアプリケーションに送信されるイメージのサイズに基づいて、（他のすべての設定が適用された後に）白紙であるかどうか判断されます。
 - **最終イメージサイズ**：スキャナーが白紙でないと判断するイメージの最小サイズを選択できます。サイズがこの値以下のイメージは白紙と判断され、スキャンアプリケーションへ送信されません。値の範囲は **1 ~ 1000 KB**（1KBは1024バイト）です。

イメージの端を埋める - 最終的に出力されるイメージの端の領域を、選択された色で埋めます。このオプションはプレビューイメージには適用されません。

- **カラー**：端を埋める色を選択できます。
 - （なし）
 - **自動**：イメージの端が周囲の色で自動的に埋められます。
 - **自動 - 破れを含める**：端埋めに加え、ドキュメントの端の破れも補完されます。
 - **白**
 - **黒**
- **フレーム設定**：このオプションをオンにすると、4辺が等しく埋められます。
注： このオプションは **[白]** または **[黒]** のみで使用できます。
- **上**：上端を埋める量を決定します。
注： このオプションは、**[フレーム設定]** がオンになっていると利用できません。
- **左/右**：左のオプションは左端を埋める量を、右のオプションは右端を埋める量を決定します。
注： これらのオプションは、**[フレーム設定]** がオンになっていると利用できません。
- **下**：下端を埋める量を決定します。
注： このオプションは、**[フレーム設定]** がオンになっていると利用できません。

注：

- **[イメージの端を埋める]** を使用する場合、大き過ぎる値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。
- このオプションはプレビューイメージには適用されません。

縦縞フィルタ - イメージから縦縞をフィルタするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、ドキュメント上には存在しないにもかかわらず、まれにイメージに現れる線のことです。縦縞は、ドキュメント上の汚れ（例：泥、塵、擦り切れた端など）が原因で発生するか、スキャナーの推奨清掃手順に従わないために発生します。

- **オン**：縦縞フィルタ機能を使用します。
- **強度**：縦縞フィルタの強弱を調整します。値の範囲は -2 ~ 2 です。デフォルト値は 0 です。

カラードロップアウト - フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの線とボックスを削除）。白黒イメージの場合、これらの設定は白黒イメージを生成するために使用するグレースケール版の原稿イメージに影響します。

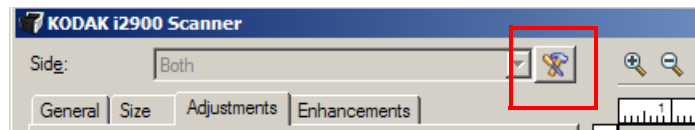
- **カラー**：ドロップアウトする色を選択します。
 - (なし)
 - マルチ：濃い色合い（黒や濃紺インクなど）以外のドロップカラー。
 - 主色：主色をドロップアウトします
 - 青：青色をドロップアウトします。
 - 赤色
 - 緑色
- **強度**：強弱を調整してドロップアウトします。値の範囲は **-10 ~ 10** です。デフォルト値は 0 です。このオプションは、[カラー] が [複数] または [主色] に設定されている場合にのみ、使用できます。

注： [カラードロップアウト] オプションは、[スキャン方法] で [白黒] または [グレースケール] が選択されている場合にのみ利用できます。

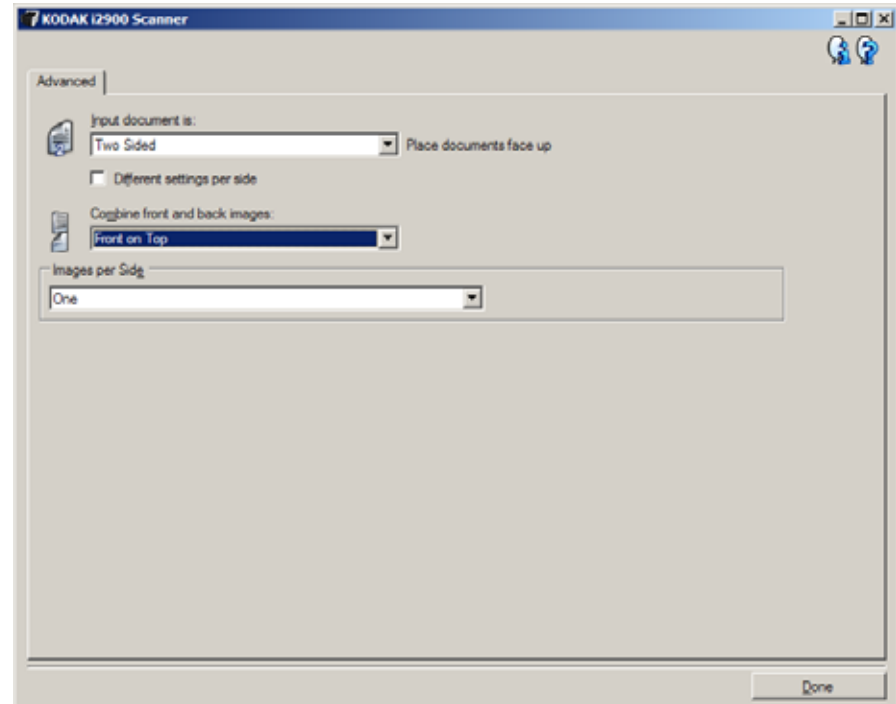
詳細イメージ セットアップ

[詳細] タブ

[イメージの詳細設定] アイコンは、イメージ設定ウィンドウの上部にある、**[読取り面]** ドロップダウンボックスの隣にあります。

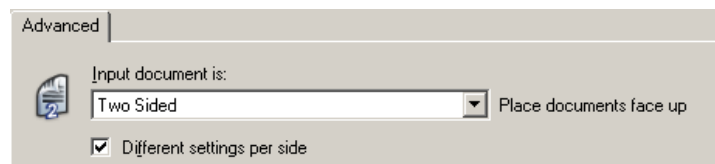


[イメージの詳細設定] アイコンを選択すると、**[詳細]** タブが表示されます。

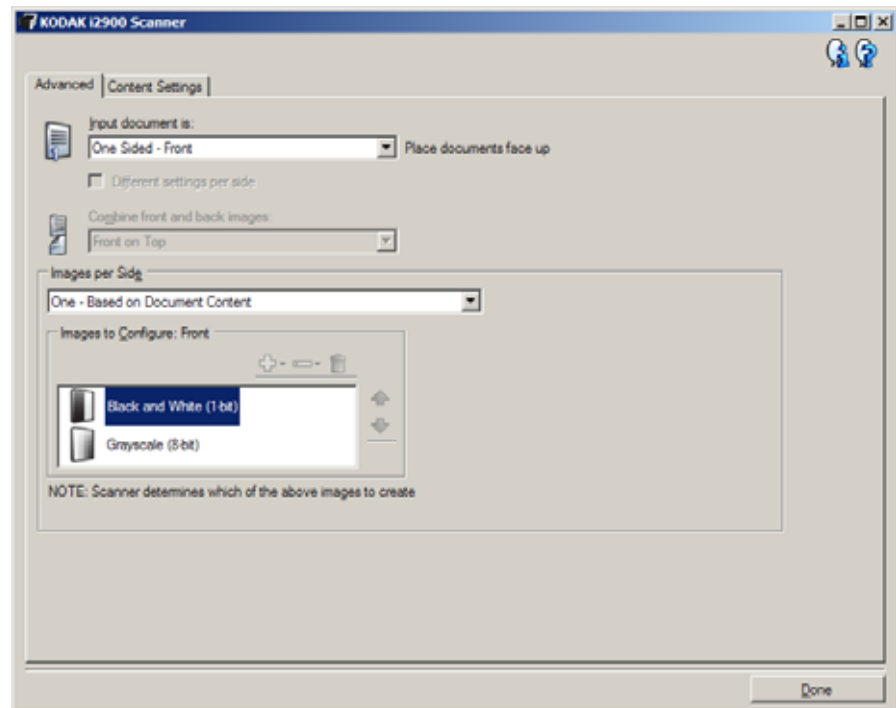


入力ドキュメントのタイプ - 設定する面に応じて、**[両面]**、**[片面 - 表]**、または **[片面 - 裏]** を選択します。

読取り面ごとに設定を変更 - デフォルトでは、選択した設定内容が両面のイメージに適用されます。スキャン対象ドキュメントのそれぞれの面に異なるイメージ処理設定を適用する場合に、このオプションを選択します。たとえば表面をカラー、裏面を白黒にしたい場合は、まず **[入力ドキュメントのタイプ]** ドロップダウンリストから **[両面]** オプションを選択し、次に **[読取り面ごとに設定を変更]** のチェックボックスを選択します。



この操作を行うと、[イメージ設定] ウィンドウにある[読取り面] オプションが有効になり、読み取り面ごとに異なる設定を選択することができます。[読取り面ごとに設定を変更] を有効にしているため、最初の選択内容はスキャン対象ドキュメントの表面のみ適用されます。表面に関するオプションを選択し終わったら、[読取り面] オプションから裏面を選択し、裏面に適用するオプションを設定していきます。



表面と裏面のイメージを結合 - 通常は1枚の原稿につき、表面に対して1つのイメージが作成され、裏面に対して別のイメージが作成されます。このオプションを有効にすると、原稿の表面と裏面を1つのイメージに結合します。オプションは以下のとおりです。

- 表面を上：表面を裏面の上に配置します。
- 表面を下：裏面を表面の上に配置します。
- 表面を左：表面を裏面の左に配置します。
- 表面を右：裏面を表面の左に配置します。

注：

- このオプションが使用できるのは、[入力ドキュメントのタイプ] が [両面] に設定されており、[読取り面ごとに設定を変更] が選択されておらず、[読取り面あたりのイメージ数] が [1] に設定されており、ドキュメントフィーダからスキャンが実行された場合に限られます。
- このオプションはプレビューイメージには適用されません。

読取り面あたりのイメージ数 - イメージ処理する選択項目に基づいて、読取り面あたりに作成するイメージの数を示します。

- **1 : 1種類のイメージを作成します。**
- **1 - 色量基準** : 書類によってカラー / グレースケールか、白黒のいずれかを自動的に検知します。
- **1 - トグルパッチに依存** : カラーパッチの原稿によって、カラー / グレースケールから白黒のスキャンに切り替わります。
- **マルチ** : 複数イメージが作成されます。

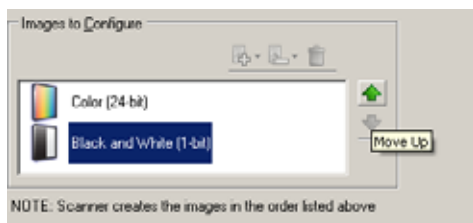
注 : [読取り面あたりのイメージ数] オプションから [1 - 自動カラー検知] を選択すると、[原稿内容の設定] タブが表示されます。

設定するイメージ - 設定する電子イメージを示します。

注 : [読取り面あたりのイメージ数] オプションから [1] 以外の項目を選択している場合にのみ、このオプションを使用できます。詳細オプションの設定方法は、次のセクションを参照してください。

- **例 1** : ドキュメントの色量を基にカラー / グレースケールと白黒スキャンを切替え
- **例 2** : ドキュメントの各面に対して複数イメージを作成
- **例 3** : ドキュメントの両面にそれぞれ異なる設定を使用

スキャナーからスキャンアプリケーションにイメージを送る順番は、上矢印と下矢印で変更します。



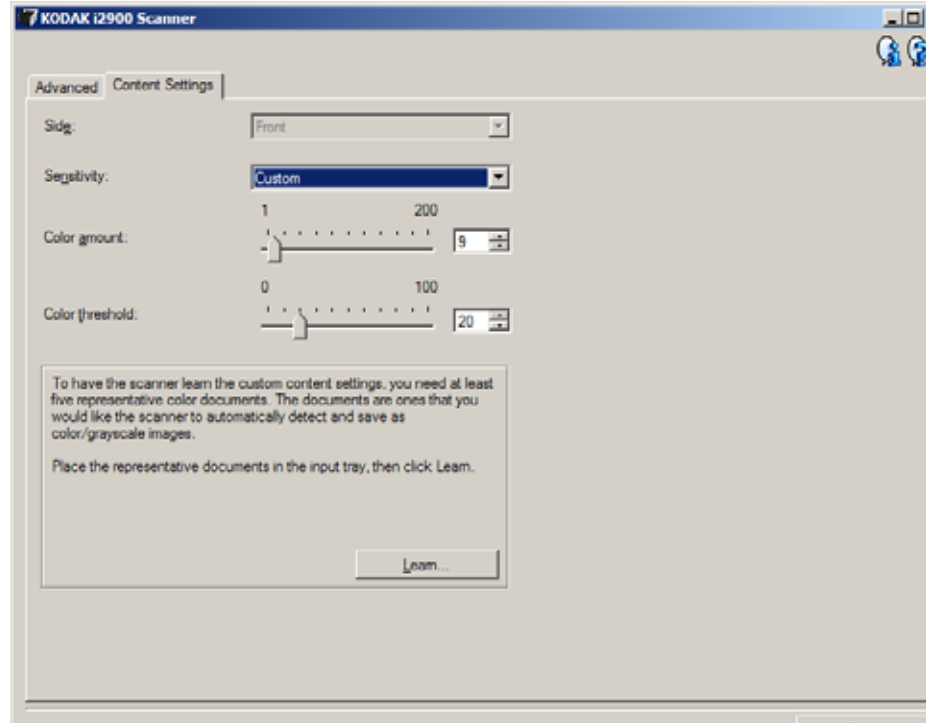
ツールバーボタン :

	追加 : 設定リストの一番下にイメージを追加します。
	変更 : 現在選択されているイメージの種類を変更します。
	削除 : 選択したイメージの種類を削除します。

完了 - [イメージ設定] ウィンドウに戻ります。

[原稿内容の設定] タブ

[原稿内容の設定] タブのオプションは、片面または両面ジョブに使用できません。



読取り面 - [感度] の設定を適用する面を指定します。このオプションは、[詳細] タブで [読取り面ごとに設定を変える] が選択されている場合のみ使用できます。

感度

- **低** : カラー / グレースケールイメージとして保存する場合に、スキャンする原稿の色の量が少ない場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、マーカの量や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中** : カラー / グレースケールイメージとして保存する場合に、[低] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高** : カラー / グレースケールイメージとして保存する場合に、[中] オプションよりも、色の割合が多い場合に選択します。中～大規模のカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、[カラーレスレッシュールド] や [色量] 値の調整が必要になる場合があります。

- **カスタム**：手動で **[色量]** や **[カラーレッシュヨルド]** の値を調整することができます。

注： **[感度]** の値を設定する場合は、まず **[中]** オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー/グレースケールとして返された場合は、**[高]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー/グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合には、**[低]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。以上のオプションで満足いく結果が得られなかった場合は、**[カスタム]** を選択して手動で **[色量]** や **[カラーレッシュヨルド]** を調整してください。**[カスタム]** を選択した場合、**[自動設定]** モードを使ってスキャナーに原稿を分析させ、推奨する設定値を算出させることもできます。

色量 - 原稿をカラー/グレースケールで保存する際に、原稿中に最低限必要なカラーの量です。**[色量]** の値を増やすと、必要とされるカラーピクセルの量も増加します。有効値は **[1]** ~ **[200]** です。

カラーレッシュヨルド - 色量の算出時に特定の色を含めるための、カラーレッシュヨルドまたは彩度（薄青と 紺色の対比など）。値を増やすと、必要とされる彩度が高くなります。有効値は **[0]** ~ **[100]** です。

自動設定 - スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。**[自動設定]** を選択する前に、入力エレベータに5枚以上のカラー原稿をセットしてください。これらの原稿をスキャン、分析して推奨される **[色量]** を決定します。

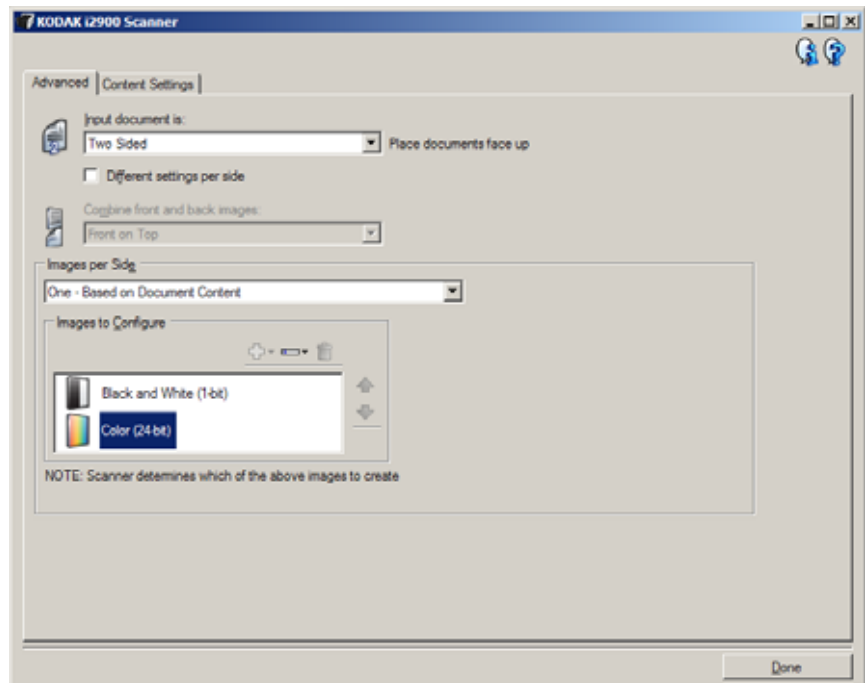
注： 計算に応じて **[色量]** と **[カラーレッシュヨルド]** の値が自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、**[カラーレッシュヨルド]** の値をマニュアルで調整してください。

**例1：原稿の色量を基に
カラー/グレースケール
と白黒スキャンを切替え**

この例では、両面に情報が印刷されたカラーと白黒原稿が混在するスキャンセッションを設定します。また、スキャンで原稿がカラーか白黒かを判断し、それに基づきカラーまたは白黒イメージが出力します。

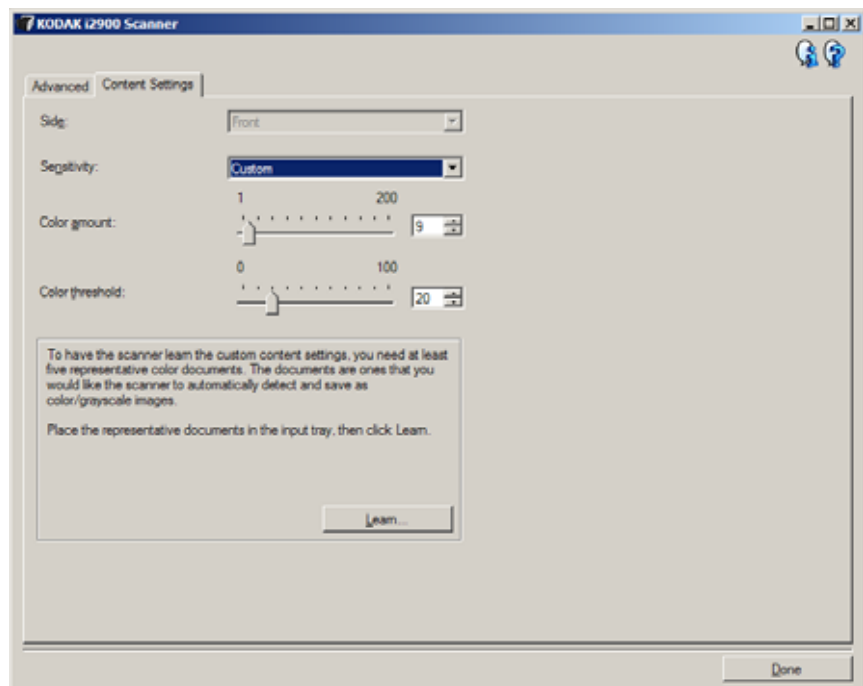
1. コダックスキャナーメインウィンドウから、**【設定のショートカット】** を選択し、現在の設定内容をさらに調整します。
2. **【設定】** を選択すると、**【イメージ設定】** ウィンドウが表示されます。
3. **【イメージ設定】** ウィンドウの **【詳細イメージセットアップ】** アイコンを選択すると、**【詳細】** タブが表示されます。
4. **【入力ドキュメントのタイプ】**：**【両面】** を選択します。
5. **【読み取り面あたりのイメージ数】**：**【1 - 自動カラー検知】** を選択します。

注： **【詳細】** タブに **【設定するイメージ】** が表示され、**【カラー】**、**【白黒】** イメージ項目が選択できます。**【原稿内容の設定】** タブも表示されます。



6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の設定をします。
 - **【カラー (24ビット)】** が選択されていることを確認する
 - **【変更】** を選択してオプションのリストを表示する
 - **【グレースケール】** を選択する

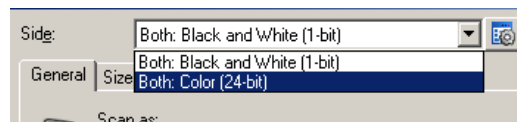
7. [原稿内容の設定] タブに移動します。



8. [感度] オプションを選択します。

9. [完了] をクリックすると、[イメージ設定] ウィンドウに戻ります。

注： [読取り面] オプションに、[両面：カラー (24 ビット)] および [両面：白黒 (1 ビット)] の2つの項目があるのが分かります。



10. [読取り面] で [両方：カラー (24 ビット)] を選択します。

注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

11. [読取り面] で [両面：白黒 (1 ビット)] を選択します。

注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

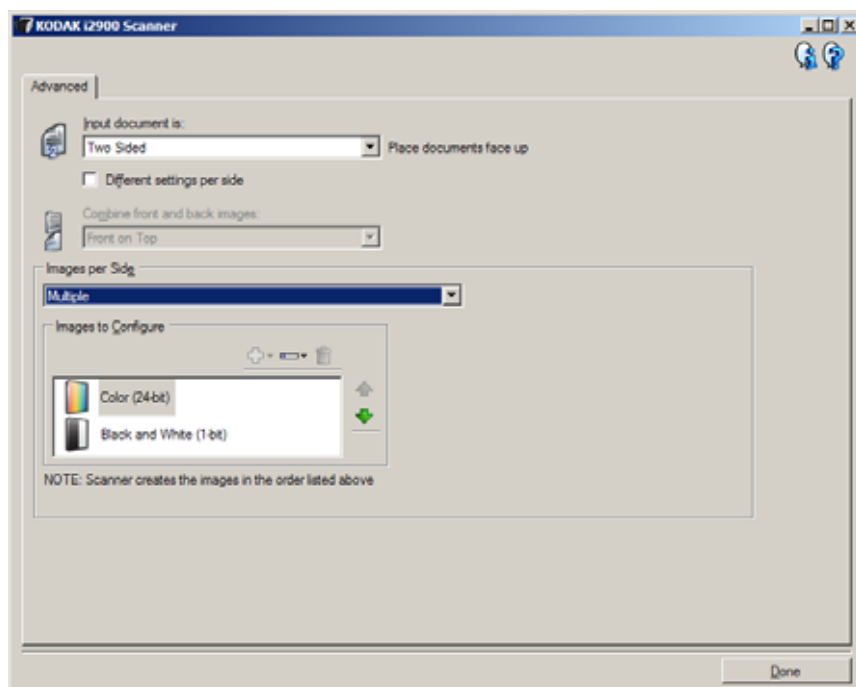
12. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してコダックスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

例2：原稿の各面に対して複数イメージを作成

この例では、両面に情報が印刷されている原稿のスキャンを想定し、原稿の各面に対してカラーと白黒イメージの両方を出力します。

1. コダックスキャナーメインウィンドウから、[設定のショートカット] を選択し、現在の設定内容をさらに調整します。
2. [設定] を選択すると、[イメージ設定] ウィンドウが表示されます。
3. [イメージ設定] ウィンドウの [詳細イメージセットアップ] アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。
4. [入力ドキュメントのタイプ]：[両面] を選択します。
5. [読取り面あたりのイメージ数]：[複数] を選択します。

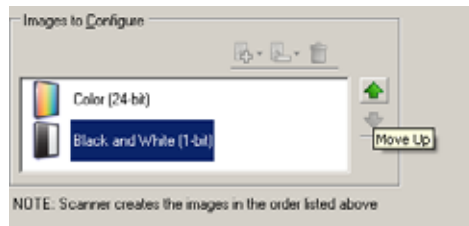
注： [詳細] タブに [設定するイメージ] が表示され、[カラー]、[白黒] イメージ項目が選択できます。



6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の設定をします。
 - [カラー (24ビット)] が選択されていることを確認する
 - [変更] を選択してオプションのリストを表示する
 - [グレースケール] を選択する

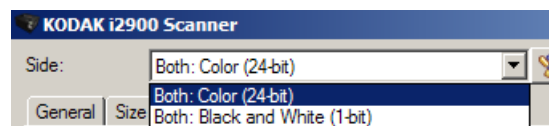
7. デフォルトでは、スキャナーはまずカラー/グレースケールイメージを出力してスキャンアプリケーションに送り、次に白黒イメージを生成してスキャンアプリケーションに送ります。白黒イメージを先に生成して送信したい場合、次の設定をします。

- **【白黒 (1 ビット)】** を選択していることを確認する
- **【上に移動】** を選択して、白黒イメージを先にリストにセットする



8. **【完了】** をクリックすると、**【イメージ設定】** ウィンドウに戻ります。

注：**【読取り面】** オプションに、**【両面：カラー (24 ビット)】** および **【両面：白黒 (1 ビット)】** の2つの項目があるのが分かります。



9. **【読取り面】** で **【両方：カラー (24 ビット)】** を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

10. **【読取り面】** で **【両面：白黒 (1 ビット)】** を選択します。

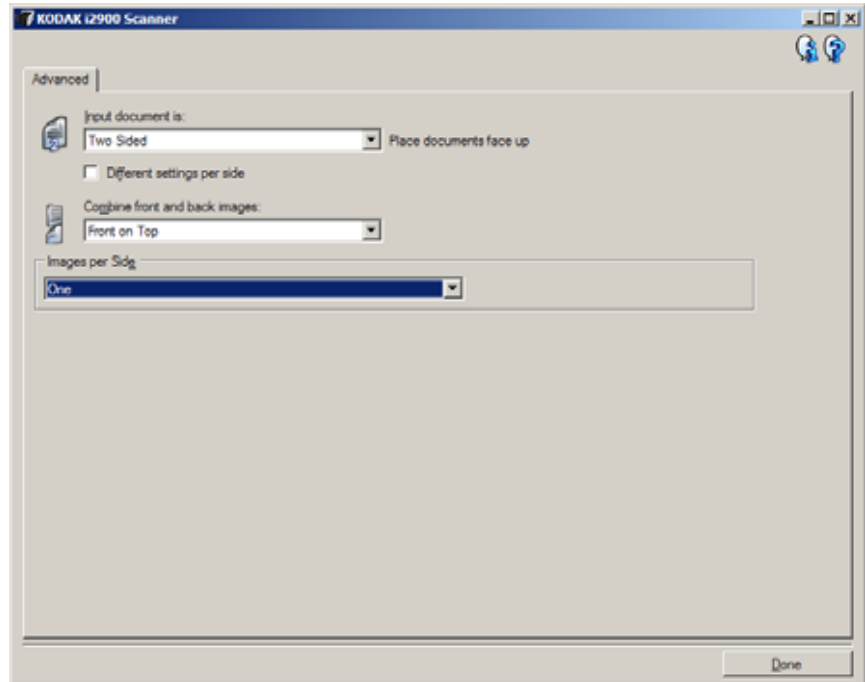
注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

11. 設定が完了したら、**【ホーム】** を選択してコダックスキャナーメインウィンドウに戻り、**【保存】** を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

例3：ドキュメントの両面にそれぞれ異なる設定を使用

この例では、表面はカラー、裏面は白黒でスキャンする設定をします。

1. [詳細] タブを開いていない場合、次の手順で設定します。
 - コダックスキャナーメインウィンドウから、[設定のショートカット] を選択し、現在の設定内容をさらに調整します。
 - [設定] を選択すると、[イメージ設定] ウィンドウが表示されます。
 - [イメージ設定] ウィンドウの [詳細イメージセットアップ] アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。
2. [入力ドキュメントのタイプ]：[両面] を選択します。
3. [読取り面ごとに設定を変更] オプションを選択します。
4. [読取り面あたりのイメージ数]：[1] を選択します。



5. [完了] をクリックすると、[イメージ設定] ウィンドウに戻ります。
注：[読取り面] オプションに、[表面] と [裏面] の2つの項目が表示されます。



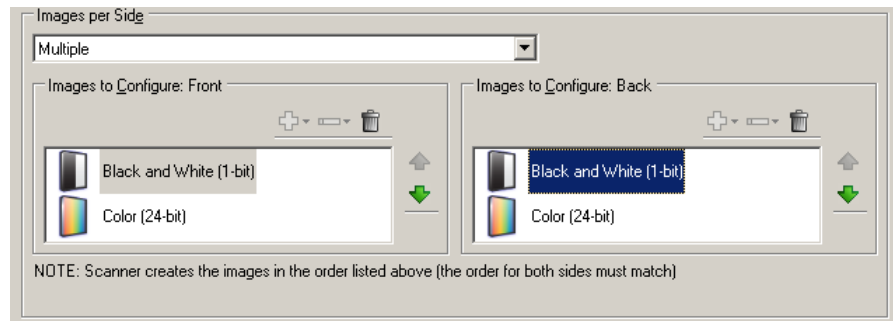
6. [読取り面]：[表面] を選択します。
7. [一般] タブの [スキャン方法] オプションで、[カラー (24ビット)] を選択します。
注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、表面の設定項目を調整します。
8. [読取り面]：[裏面] を選択します。

9. [一般] タブの [スキャン方法] オプションで、[白黒 (1ビット)] を選択します。

注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。

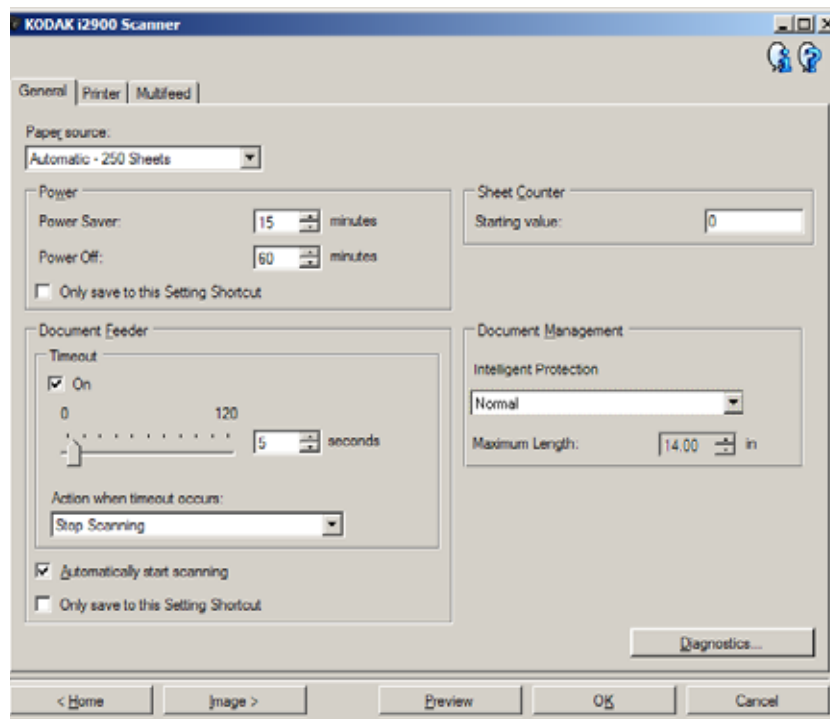
10. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してコダックスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

注： 手順 4 の [読取り面あたりのイメージ数] : [1] 以外のオプションを選択した場合、2つの [設定するイメージ] オプショングループが使用できるようになります。その場合は、表裏各面のイメージを個別にセットアップできます。



デバイス設定ウィンドウ

スキャナー固有のすべてのオプションや診断機能を、このウィンドウの利用可能なタブを使用して設定できます。デバイス設定に使用される値は、選択された設定のショートカットに保存されます。[デバイス設定] ウィンドウには、[一般]、[プリンタ]、[重送検知] の各タブがあります。



ホーム - コダックスキャナーメインウィンドウに戻ります。

イメージ - [イメージ設定] ウィンドウを表示します。

プレビュー - スキャンを開始して、[イメージ設定] ウィンドウのプレビューウィンドウにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

OK/スキャン - このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注： このボタンが [OK] の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル - 変更内容を保存せずに、コダックスキャナーメインウィンドウを閉じます。

情報アイコン

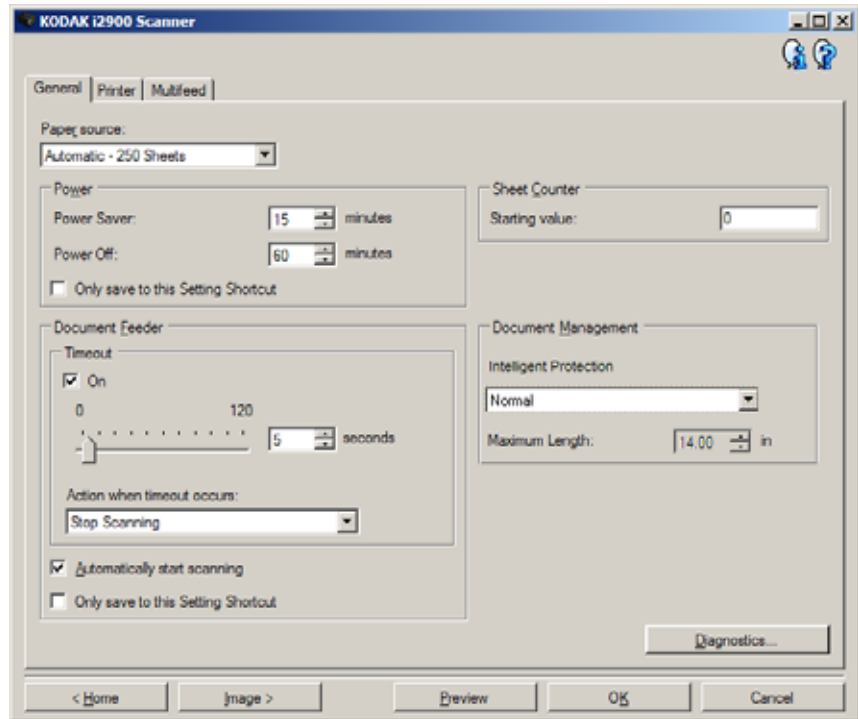


バージョン情報 : スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。



ヘルプ : 現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

[一般] タブを使用して、スキャナー固有のオプションを設定したり、スキャナー診断にアクセスできます。



スキャン方法

- **自動**：まずドキュメントフィーダ上の原稿を確認します。入力トレイに原稿がない場合は、スキャナーはフラットベッドからスキャンします。
- **自動 - 100 枚**：まず入力エレベータ上の原稿を確認し、原稿がない場合はスキャナーがフラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 25～100 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **自動 - 250 枚**：まず入力エレベータ上の原稿を確認し、原稿がない場合はスキャナーがフラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 100～250 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **ドキュメントフィーダ**：入力エレベータは一番高い位置にあります。このオプションは、入力エレベータから 25 枚以内の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **100 枚**：入力エレベータから 25～100 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **250 枚**：入力エレベータから 100～250 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **フラットベッド**：スキャナーはフラットベッドからスキャンします。

電源

- **節電モード** - スキャナーが操作されていないときに省電力モードに移行するまでの時間を設定できます。
- **電源オフ** - スキャナーの電源が自動的にオフになるまでの時間（分単位）を設定できます。

注： 省電力設定は、すべての [設定のショートカット] で共有されます。[この設定のショートカットにのみ反映] オプションを有効にしない限り、あらゆる変更は他のショートカットに反映されます。

ドキュメントフィーダ

- **タイムアウト**：最後の原稿がフィードされてから、タイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間を選択できます。このオプションは、**オフ**にすることもできます。
- **タイムアウト時の動作**：ドキュメントフィーダがタイムアウトになったときに実行するアクションを示します。
 - **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。
 - **スキャン一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。スキャナーの**開始/再開**ボタンを押すと、スキャンを再開します。スキャナーの**停止/一時停止**ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

自動的にスキャンを開始 - このオプションが選択されると、スキャナーは書類が入力エレベータにセットされるまで最長 10 秒待機します。また、入力エレベータが空になった場合、原稿が入力エレベータにセットされるとスキャナーは自動的にスキャンを再開します。スキャナーはドキュメントフィーダのタイムアウトで指定された時間待機します。

注： ドキュメントフィーダ設定は、すべての [設定のショートカット] で共有されます。[この設定のショートカットにのみ反映] オプションを有効にしない限り、あらゆる変更は他のショートカットに反映されます。

用紙枚数カウンタ - スキャナーに入る次の原稿に割り当てられる番号を入力します。スキャナーによってカウントアップされ、イメージヘッダにカウンタ値が送られます。

注： これを変更すると、[デバイス - プリンタ] タブの [カウンタ] オプションに影響が及びます。

原稿管理

- **インテリジェントプロテクション** - スキャナーへの入り方が正しくない原稿をどの程度まで検知するかを選択できます。これは、原稿がスキャンできるように正しく整理されていない（ホチキス、紙クリップの付いたドキュメント）場合に発生します。
 - (なし)
 - **最小**：スキャナーが頻繁に停止し、検知させたくない場合はこのオプションを選択します。
注： 検知されるまでに原稿が破損する可能性があります。
 - **通常**：原稿の破損を抑え、不必要にスキャナーを停止しないので、このオプションをお勧めします。
 - **最大**：原稿の破損を最小限に抑えるにはこのオプションを選択します。
注： スキャナーが不必要に停止する場合があります。
- **最長ドキュメントサイズ** - ドキュメントセット内で最長のドキュメントサイズの値を設定します。

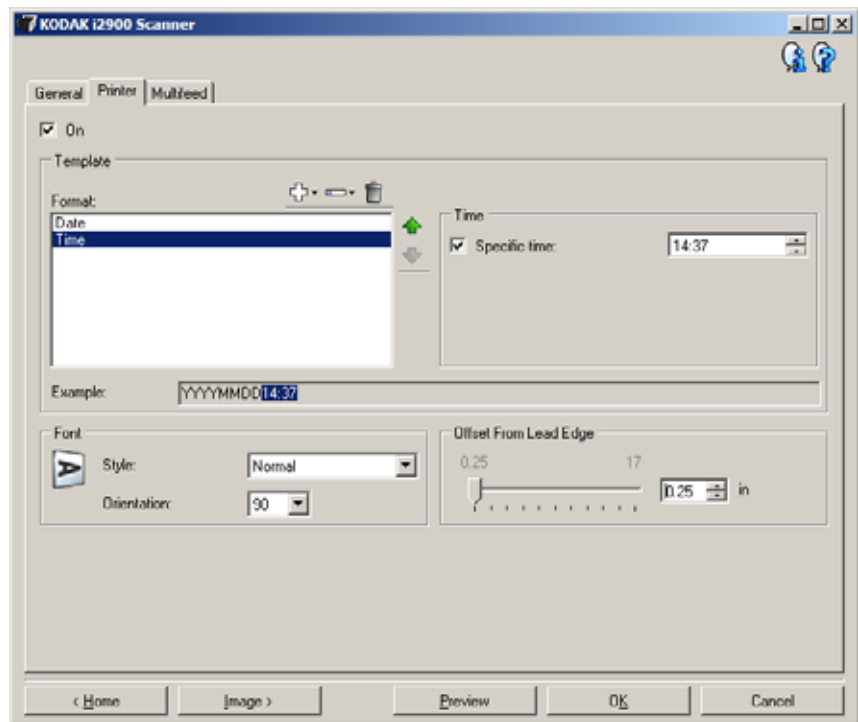
注：

- この値を変更すると、次の設定の最大値に影響します。[サイズ - アウトライン]、[プリンタ - 先端からのオフセット]、[重送検知 - 長さによる探知]
- 長尺ドキュメントは（解像度、カラー、グレースケールなど）すべての設定の組み合わせをサポートしません。柔軟にアプリケーションに対応できるように、長さを超えた原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
- 長尺原稿の場合は、スキャナーの処理能力が低下する場合があります。

診断 - [診断] タブが表示されます。

デバイス - [プリンタ] タブ

拡張プリンタには、搬送方向に対し平行に印字することができる機能があり、英数字、日時、原稿カウント、カスタムメッセージをサポートしています。印刷情報は原稿ごとにすべてヘッダレコードに取り込まれます。



オン - 印字をオンにして、このタブの他のオプションを有効にします。

テンプレート：フォーマット - 印字文字列を定義できます。印字文字列の最大文字数は40文字です（スペースを含む）。

ツールバーボタン

	追加 ：印字文字列に追加する項目リストを表示します。項目を1つ選択すると、その項目は [フォーマット] リストの最後に表示されます。
	変更 ：[フォーマット] リスト内で現在選択されている項目を、表示されているそのリスト中の項目のいずれかと変更できます。
	削除 ：現在選択されている項目を [形式] リストから削除できます。

注： 印字文字列を構成する場合、40 文字の制限に適合する項目だけを [追加] および [削除] リストから使用できます。

項目 - 項目が選択されると、関連付けられたオプションはすべて [形式] リストの右側に表示されます。

- **カウンタ** : これは、スキャンセッションのドキュメント数です。これは、スキャナーにより順次増え、イメージヘッドに送られます。

- **開始値** : 次にスキャンする原稿のカウンタ値を設定できます。

- 注 : この値を変更すると、デバイス - [一般] タブの [シートカウンタ] オプションに影響が及びます。

- **フィールドの桁数** : カウンタの幅を 1 ~ 9 までの範囲で設定できます。ただし、印字文字列が残り 6 文字の場合は、フィールドは 6 桁までになります。

- **ゼロ付き** : カウンタ値がフィールドの桁数以下の場合、カウンタの表示形式を設定できます (以下の例はフィールドの桁数が 3、カウンタ値が 4 の場合です)。次のオプションを選択できます。

- 表示 : "004"

- 表示しない : "4"

- スペースとして表示 : " 4"

- **日付**

- **フォーマット** :

- MMDDYYYY**

- DDMMYYYY**

- YYYYMMDD**

- DDD (ユリウス日付)**

- YYYYDDD (ユリウス日付)**

- **区切り記号** : (例は YYYYMMDD の場合です)

- なし

- スラッシュ : 2010/08/24

- ハイフン : 2010-08-24

- ピリオド : 2010.08.24

- スペース : 2010 08 24

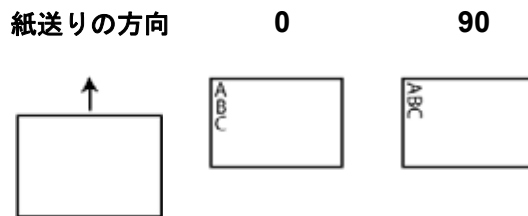
- **特定の日付** : スキャナーの現在の日付を使用しない場合は、特定の日付を設定できます。

- 時刻：HH:MM 形式です。
 - 特定の時刻：スキャナーの現在の時刻を使用しない場合は、特定の時刻を設定できます。
 - スペース：スペースを追加します。
 - メッセージ：印字文字列に含める任意の文字列を指定できます。（スペースを含めて）最大40文字まで指定できます。
- 注：日本語を正しく表示するには、Microsoft Global IME 5.01 for Japanese - with Language Pack, English Language Version のインストールによって設定されたMSゴシックをフォントに使用する必要があります。これは、www.microsoft.com/msdownload/iebuild/ime5_win32/en/ime5_win32.htm で入手できます。
- テンプレートの例 - 印字文字列がどのように表示されるか例を表示します。
[フォーマット] リストで項目を選択すると、例で該当するポーションが強調表示されます。
- フォント - 情報を印字する方向を選択できます。
 - 書式：使用できる文字の書式は、標準、太字および極太です。



標準：90度回転 太字：90度回転 極太：90度回転

- 方向：文字を縦方向（原稿の先端から開始）に印字する場合、印字文字列の方向を選択できます。使用可能なオプションは[0]および[90]です。

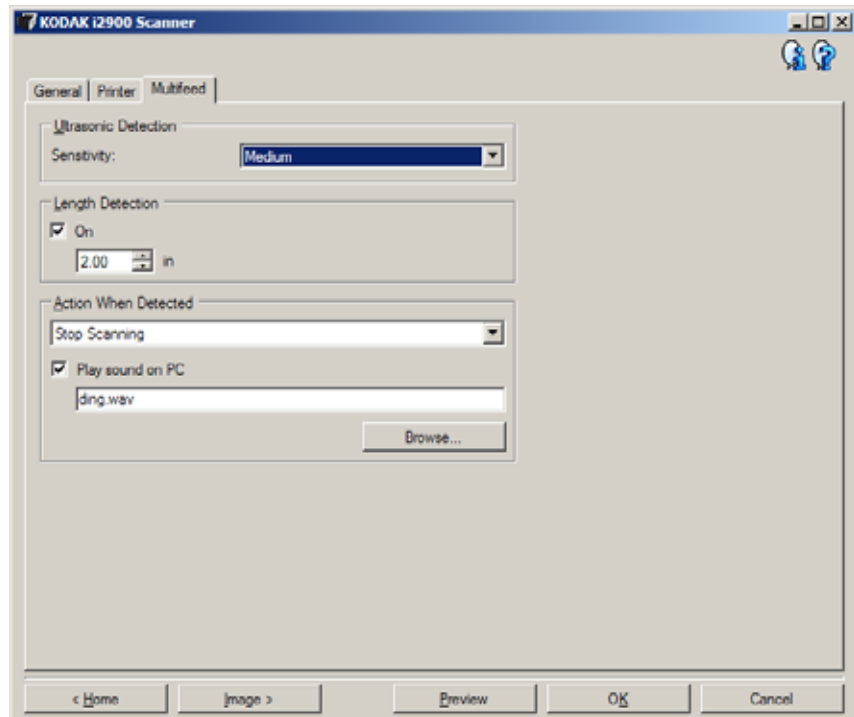


先端からのオフセット - 値を選択して、情報が原稿の先端からどれくらい離れて印字されるか決定します。

注：

- 情報がすべて印字されていなくても、印字は原稿の後端から 6.3 mm のところで自動的に停止します。
- 印字の横位置は、スキャナー内部のインクカートリッジの場所によって決まります。印字位置の設定の詳細については、『ユーザーズガイド』を参照してください。

重送検知機能は、原稿が重なった状態で給紙された時点で重送を検知します。重送検知はホッチキスで綴じられた原稿、糊のついた原稿、静電気を帯びている原稿が原因で発生します。



超音波検知

感度 - スキャナーに複数のドキュメントが重なった状態で送られたかどうかを、検知レベルを指定します。重送検知機能は、ドキュメントとの隙間を検出することにより、重なった書類を識別します。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を認識します。

- (なし)
- **低** : レベルが低い設定で、ラベルが貼られた原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性がもっとも低くなります。
- **中** : 厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、ほとんどのラベルは重送とは認識されません。
- **高** : 最もレベルが高い設定です。この設定は、すべてのドキュメントが 75.2 g/m² 以下のポンド紙の厚さである場合など、厚さが同じドキュメントをスキャンするのに適しています。

注 : 設定の内容に関係なく、「貼付された」メモは重送として検知されます。

長さによる検知 - ジョブ設定でドキュメントの最大の長さを選択できます。スキャナーがこの値より長い原稿を検知した場合、重送が発生したと判定します。このオプションを**オフ**にするか、長さを設定できます。

検知時の動作 - 重送検知時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。

- **スキャンの停止** : スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります (ジョブを終了します)。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの停止 - イメージ生成** : スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります (ジョブを終了します)。重送原稿のイメージが生成されます。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの停止 - 用紙を搬送部に残す** : スキャンを直ちに停止し (搬送路に残ります)、スキャンアプリケーションに戻ります (ジョブを終了します)。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの続行** : スキャナーはスキャンを継続します。
- **スキャン一時停止** : スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します (フィーダを停止します)。スキャナーの**開始/再開**ボタンを押すと、スキャンを再開します。スキャナーの**停止/一時停止**ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

PCの音源を鳴らす - 重送検知時にPCから音を鳴らす場合、このオプションを選択します。**[参照]** ボタンをクリックして、再生する .wav ファイルを選択できます。

注 : PCの音源は、スキャナーの重送検出時と同時に鳴らない場合があります。

- **最小** : スキャナーが頻繁に停止し、検知させたくない場合はこのオプションを選択します。

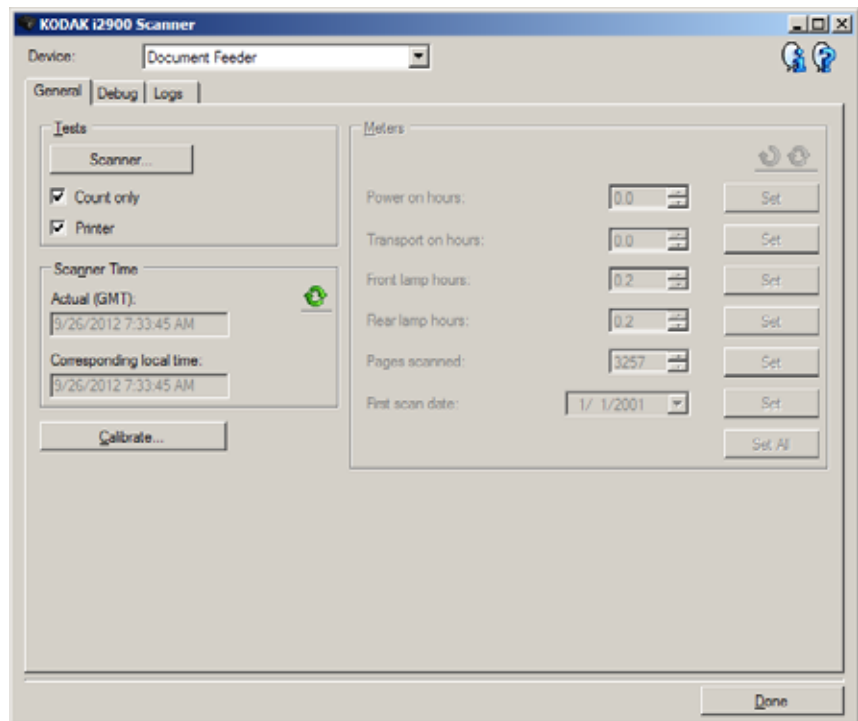
注 : 検知されるまでに原稿が破損する可能性があります。

- **通常** : 原稿の破損を抑え、不必要にスキャナーを停止しないので、このオプションをお勧めします。
- **最大** : 原稿の破損を最小限に抑えるにはこのオプションを選択します。

注 : スキャナーが不必要に停止する場合があります。

[診断] ウィンドウ

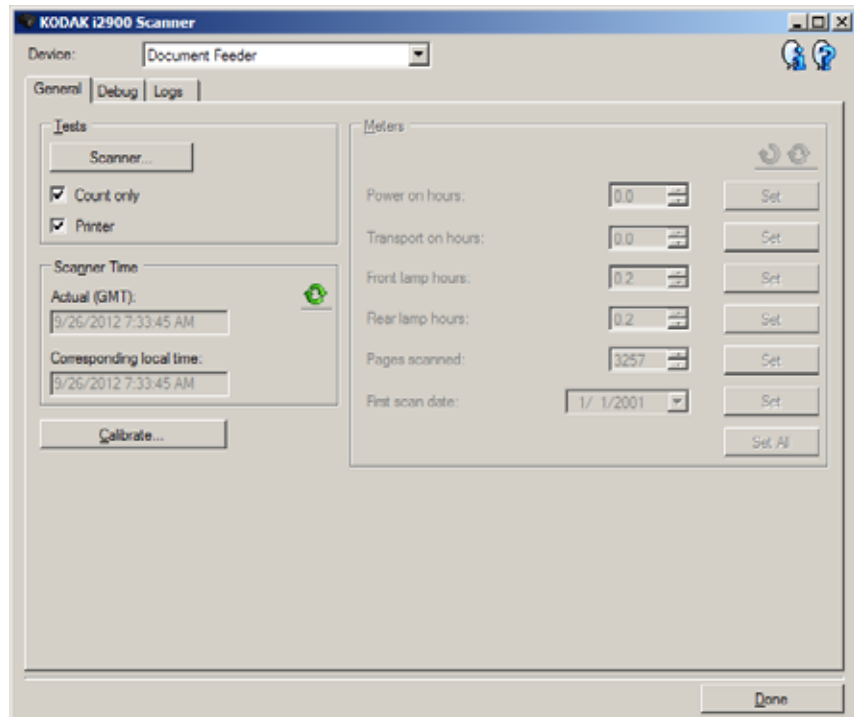
このウィンドウではスキャナーの診断機能が使用できます [診断] ウィンドウには、[一般]、[デバッグ]、[ログ] の各タブがあります。[診断] ウィンドウは、[デバイス設定] ウィンドウの [一般] タブにある [診断] ボタンからアクセスできます。



デバイス - 診断を実行するデバイスを選択します。オプションは、[ドキュメントフィーダ] または [フラットベッド] です。

完了 - [デバイス設定] ウィンドウに戻ります。

[一般] タブでは、スキャナーのテストや、スキャナー時刻の確認ができます。




テスト

- **スキャナー**：電源投入時のセルフテストと似ていますが、より詳細にテストを行います。このボタンをクリックすると、一連のチェックが行われ、すべてのスキャナーハードウェアが正常に動作しているかどうかを確認されます。
- **カウントオンリー** - 実際にイメージをスキャンアプリケーションに送信せずにスキャナーに入る原稿の枚数を数えます。このテストは、このオプション有効時のスキャンセッション中に実行されます。
- **プリンタ** - すべてのインクジェットが機能しているかなど、拡張プリンタの機能性をテストします。このテストは、このオプション有効時のスキャンセッション中に実行されます。

注：[カウントオンリー] および [プリンタ] テストは、スキャンアプリケーションがスキャナーから切断されると、自動的に終了します。

スキャナー時刻

- **標準時 (GMT)**：スキャナーのグリニッジ標準時間を表示します。
- **対応する現地時刻**：コンピュータの現地時間帯でスキャナーのグリニッジ標準時を表示します。

 : **更新**：スキャナー時刻を再表示します。

キャリブレーション - [キャリブレーション] ウィンドウを表示します。

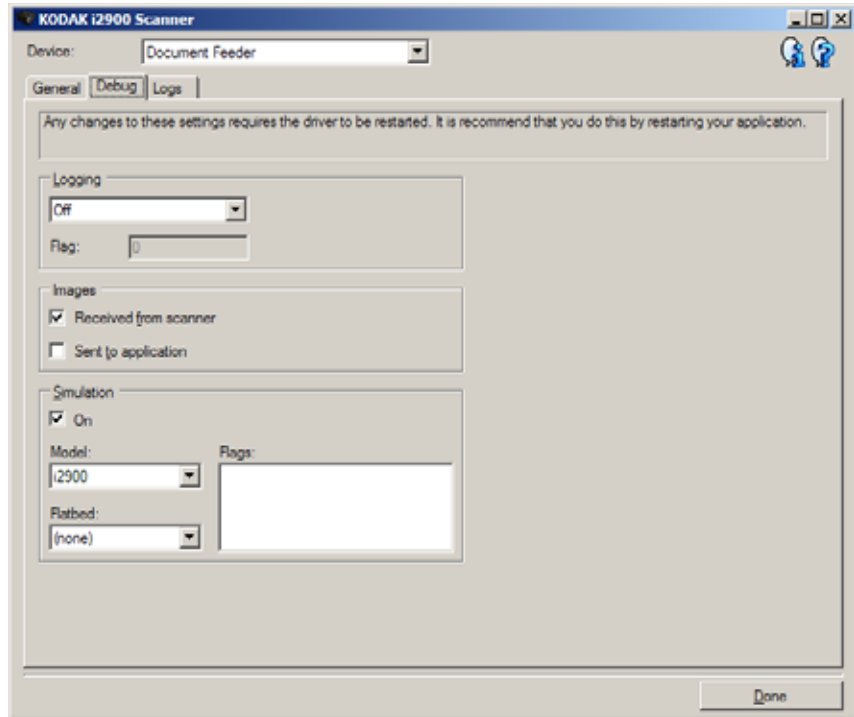
注：キャリブレーションは頻繁に行う必要はなく、また、お勧めもしません。サービス & サポート担当者の指示があった場合のみキャリブレーションを実行します。

診断 - [デバッグ] タブ

[デバッグ] タブは、スキャナーを使用中に発生した問題を診断する場合に有効にします。サポート担当者からの指示があった場合のみこのオプションを有効にしてください。

注：

- このタブにあるすべてのオプションは、現在選択されている設定のショートカットだけでなく、すべての設定のショートカットに適用されます。
- このタブでの変更を有効にする場合は、アプリケーションを再起動する必要があります。



ログ - スキャナーとスキャンアプリケーションの間で行われた通信を保存します。オプション：[オフ]、[オン]、[カスタム] があります。

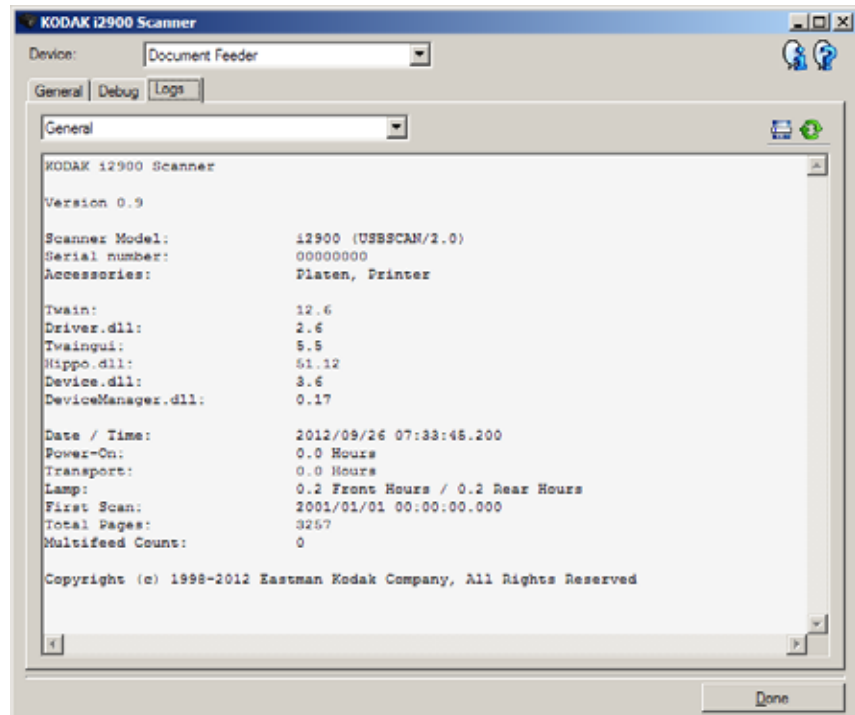
イメージ

- **スキャナーから受信**：スキャナーからPCに送信されたイメージを保存します。
- **アプリケーションに送信**：スキャナーからスキャンアプリケーションに送信されたイメージを保存します。

シミュレーション - 実際にスキャナーを使わずにTWAINデータソースを使用することができます。

- **モデル**：シミュレートするスキャナーのモデルを指定できます。
- **フラットベッド**：フラットベッドアクセサリを選択してシミュレーションを実行します。
- **フラグ**：TWAIN データソースがこのオプションをサポートしている場合、シミュレートするスキャナーにインストールされているアクセサリのリストが表示されます。

[ログ] タブでスキャナー情報が表示されます。



ログ

- **一般**：スキャナーのバージョン情報、シリアル番号、インストールされたアクセサリ、メーターなどが表示されます。
- **オペレータ**：スキャナーのログが表示されます。このログはコダックサポート担当者のみがクリアできます。

ツールバーボタン



名前を付けて保存：すべてのログを保存します。このログは、コダックのサポート担当が閲覧します。選択すると [名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。

- **説明**：ログを保存する問題/理由の簡単な説明を入力します。
- **フォルダ**：ログの保存先です。
- **参照**：オペレーティングシステムの [ファイルを開く] ウィンドウが表示され、使用するフォルダを検索できます。
- **デバッグイメージを含む**：生成されたデバッグイメージをログと共に保存します。このオプションはデフォルトで有効になっています。サポート担当者から指示された場合のみ無効にしてください。
- **保存**：拡張子 .eklog でログファイルを保存します。



更新：現在表示されているログを更新します。

Kodak